

大台町の未来を担う子どもたちのための教育環境整備

～ 大台町立小学校の適正規模及び適正配置について ～

答申

令和8年3月

大台町立小学校のあり方検討委員会

目 次

1. 大台町立小学校の現状と今後の見込み

- (1) 大台町の人口推移と将来推計 2
- (2) 各学校の児童数と学級数の推移 4
- (3) 大台町立小学校の校舎等の状況について 7

2. 大台町がめざす教育

- (1) 大台町教育行政大綱について 13
- (2) 大台町学校教育の方針 13

3. 「大台町の子どもたちのより良い教育環境を考える」アンケート

- (1) 調査結果 16
- (2) 児童生徒アンケート結果 26

4. 国・県における適正規模の考え方

- (1) 法令に見る学校の適正規模とは 29
- (2) 学級数による教員の配置について 29
- (3) 国・三重県における学級規模の基準 29
- (4) 通学距離や通学時間 30
- (5) 小規模な学校のメリット・デメリット 30

5. 大台町における小学校の適正規模・適正配置

- (1) 大台町の学校規模と今後の見込み 32
- (2) 大台町における小学校の適正規模・適正配置の考え 32

6. 未来を担う子どもたちのための教育環境の整備

- (1) 基本方針 34
- (2) 学校配置の再編・適正 34
- (3) 施設整備 34
- (4) 通学の安全対策 35
- (5) 将来の見通し 35
- (6) 今後に向けて 35
- (7) 結びに 36

《参考資料》

- (資料1) 諮問書(写し) 38
- (資料2) 大台町立小学校のあり方検討委員会設置条例 39
- (資料3) 大台町立小学校のあり方検討委員会委員名簿 40
- (資料4) 答申に至るまでの検討委員会の開催経過等 41
- (資料5) 学級数・児童数の現状と将来推計 42
- (資料6) スクールバスの運行状況 45

はじめに

『大台町立小学校のあり方検討委員会』は、令和7年5月28日に、「大台町立小学校の適正規模及び適正配置に関する事項」について、大台町教育委員会から諮問を受けました。

大台町は、以前から、少子・高齢化が進み、児童数が減少しており、現在4小学校がありますが、それぞれの学校において児童数の減少に伴う教育環境の変化がみられています。

学校の適正規模及び適正配置は、子どもたちの学校生活や学習環境、通学区域、学校周辺の地域コミュニティなど、多方面において影響を及ぼすことが考えられますので、大台町全体の児童数の推移を考慮しながら慎重に検討を進めていくことが必要となりました。

大台町は、これまでに「大台町学校施設長寿命化計画」及び「大台町公共施設個別施設計画」を策定し、今後の学校のあり方について保護者の皆さんと意見交換を行いながら検討をしてきましたが、計画の進展には至っておりませんでした。

そこで、大台町のこれまでの経緯を踏まえながら、検討委員会では、小学校の適正規模及び適正配置について、保護者の方や地域の方の思いを聴かせていただく機会も持ちながら、これまで9回の議論を行ってきました。

子どもたちの未来のために、子どもたちの教育環境をよくするために、この度、「大台町の未来を担う子どもたちのための教育環境整備 ～ 大台町立小学校の適正規模及び適正配置について ～」を取りまとめましたので、ここに答申いたします。

令和8年3月23日

大台町立小学校のあり方検討委員会

委員長 竹内 一

1. 大台町立小学校の現状と今後の見込み

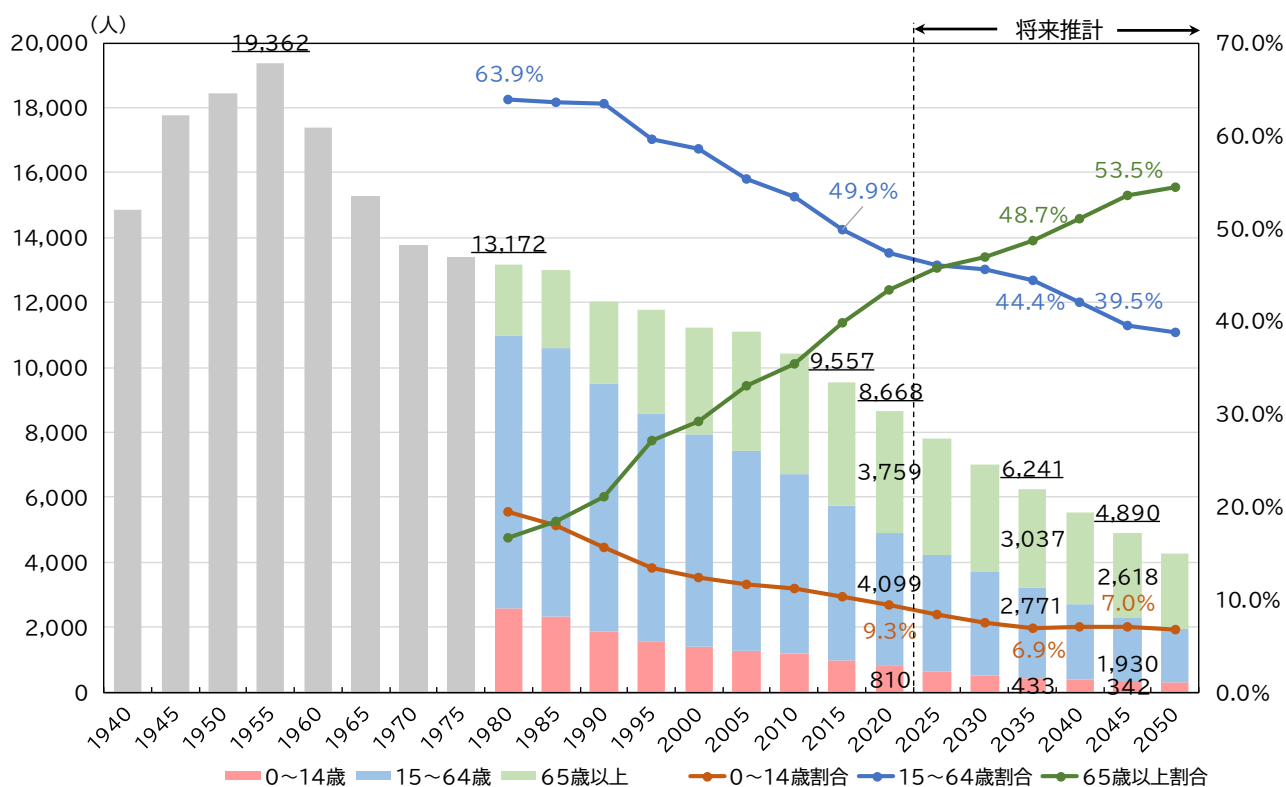
(1) 大台町の人口推移と将来推計

本町の人口は、昭和15年（1940年）以降急激に増加し、昭和30年（1955年）をピークに減り続け、現在に至るまで人口減少が続いています。

年齢3区分別人口構成を見てみると、生産年齢人口（15～64歳）、年少人口（0～14歳）とも減少が続いており、老年人口（65歳以上）は平成27年（2015年）～令和2年（2020年）をピークに減少に転じ、その後も減少し続けると推計されています。老年人口が減少傾向に転じた後も、生産年齢人口及び年少人口の減少により、高齢化率は令和32年（2050年）に向けて上昇し続けます。

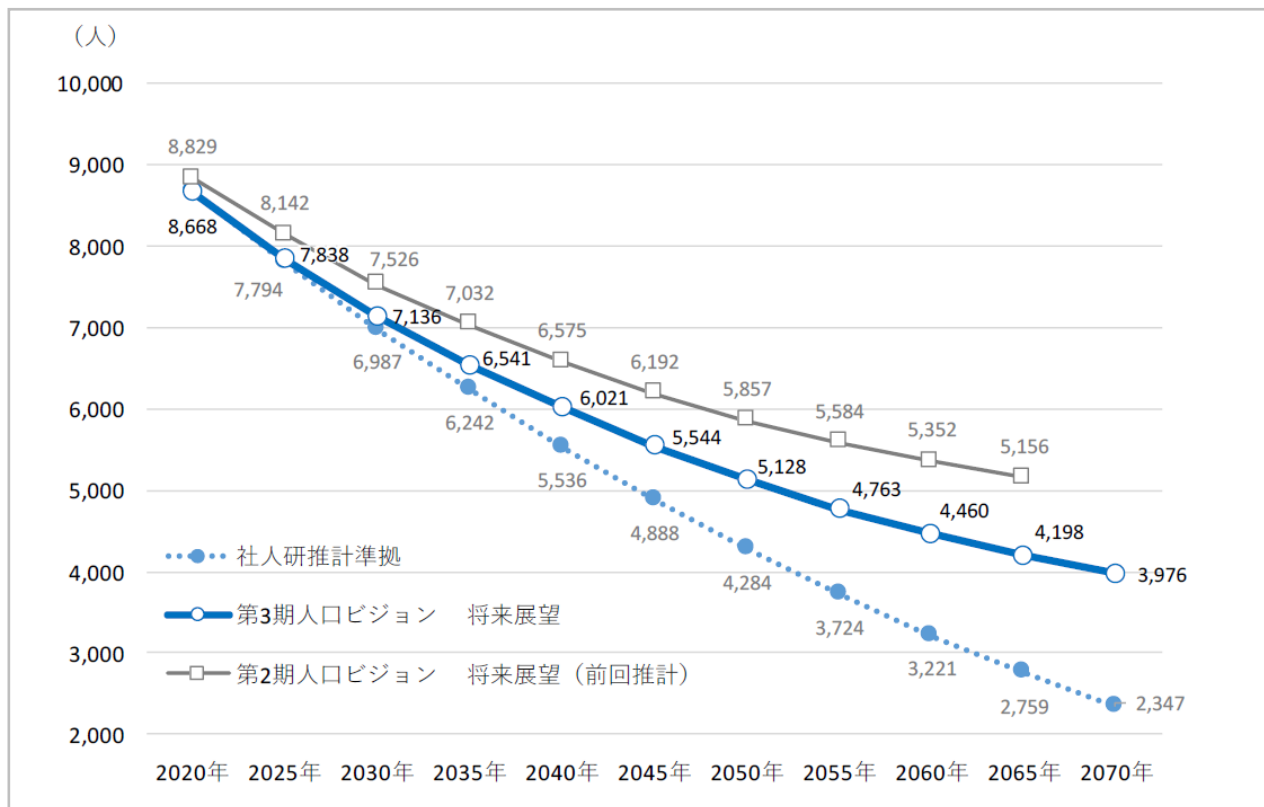
年齢3区分別人口構成比率を見ると、昭和55年（1980年）には63.9%だった生産年齢人口比率は、その後年々低下し、平成27年（2015年）には50%を割り込みました。また、年少人口の比率は令和2年（2020年）には10%を割り込み、今後も低下し続けると予想されます。

人口の推移



総人口はパターン1（社人研推計準拠）の場合、令和52年（2070年）には2,347人になると予測されますが、「第3期人口ビジョン 将来展望」（以下、「今回推計」と言う。）の場合には令和52年（2070年）に3,976人と予測されます。

今回推計は前回推計である「第2期人口ビジョン 将来展望」よりも、令和47年（2065年）時点で900人以上下回る結果となりました。



(2) 各学校の児童数と学級数の推移（令和7年5月1日現在）

●【小学校】学級数・児童数の現状（学校基本調査）

小学校	全体		1年		2年		3年		4年		5年		6年	
	学級	児童	学級	児童	学級	児童	学級	児童	学級	児童	学級	児童	学級	児童
日進	6	70	1	12	1	14	1	13	1	11	1	11	1	9
川添	4	26	1	5	1	5	0	2	1	7	0	3	1	4
三瀬谷	6	130	1	15	1	18	1	20	1	27	1	26	1	24
宮川	6	62	1	5	1	11	1	12	1	12	1	10	1	12
合計	22	288	4	37	4	48	3	47	4	57	3	50	4	49

※学級数は普通学級数のみ。三重県基準にて算出

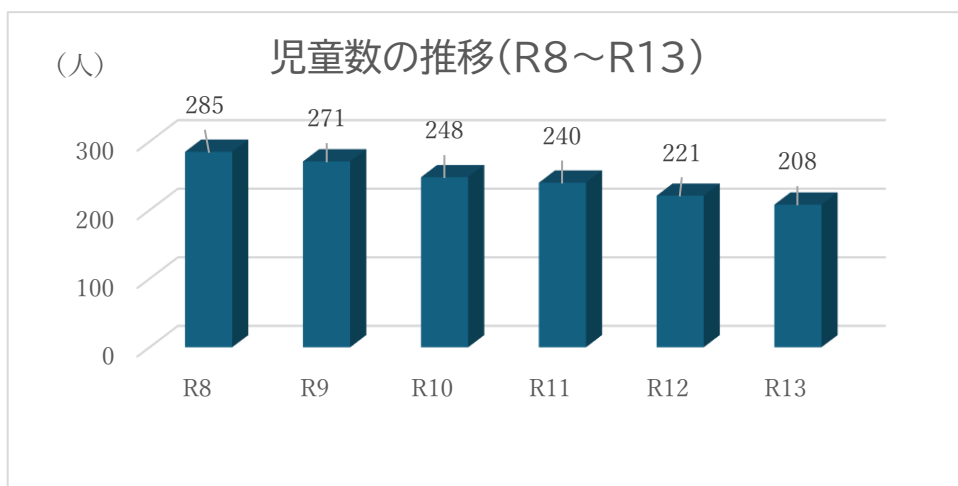
●【小学校】学級数・児童数の将来推計（令和8～13年度）（10年推計）

■ 1 複式学級あり ■ 2 複式学級あり ■ 3 複式学級あり

小学校	R8		R9		R10		R11		R12		R13	
	学級	児童	学級	児童	学級	児童	学級	児童	学級	児童	学級	児童
日進	6	70	5	72	5	73	5	72	6	63	6	56
川添	4	31	4	36	4	31	4	35	4	37	4	39
三瀬谷	6	120	6	101	6	88	6	81	6	73	6	67
宮川	5	64	5	62	5	56	4	52	5	48	4	46
合計	21	285	20	271	20	248	19	240	21	221	20	208

※学級数は普通学級数のみ。三重県基準にて算出

※日進小学校の1複式学級は、令和8年4月以降の予想から



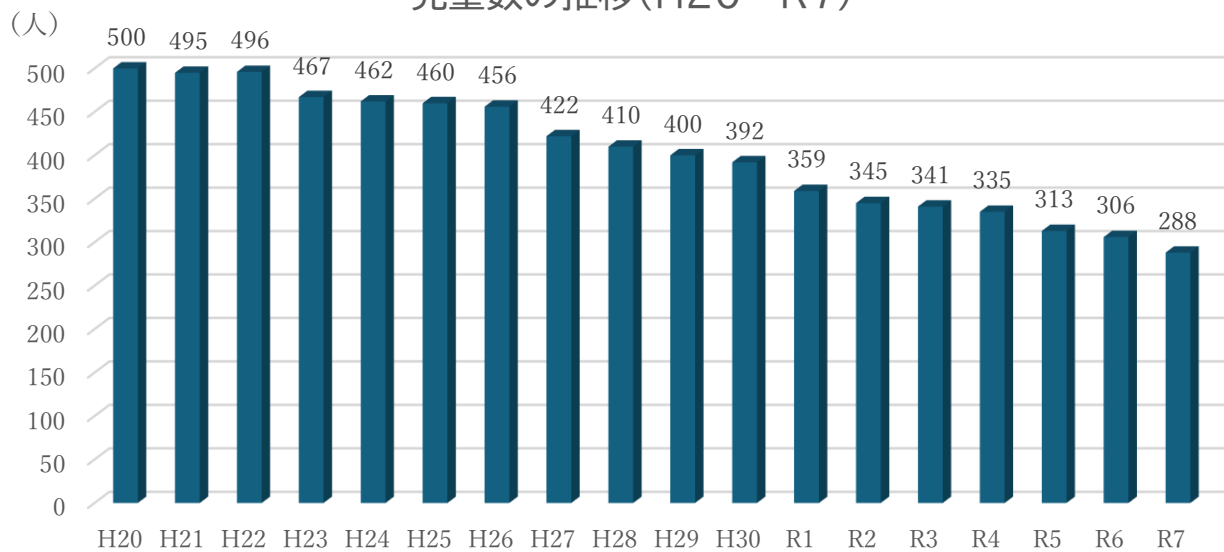
平成20年度から令和6年度までの学級数と児童数の推移

■ 1 複式学級あり
 ■ 2 複式学級あり
 ■ 3 複式学級あり

小学校	H20		H21		H22		H23		H24		H25	
	学級	児童	学級	児童	学級	児童	学級	児童	学級	児童	学級	児童
日進	6	124	6	122	6	118	6	105	6	95	6	86
川添	4	35	4	32	4	40	4	42	4	47	5	52
三瀬谷	7	193	7	201	7	199	7	200	7	205	8	211
宮川	6	148	6	140	6	139	6	120	6	115	6	111
合計	23	500	23	495	23	496	23	467	23	462	25	460
小学校	H26		H27		H28		H29		H30		R1	
	学級	児童	学級	児童	学級	児童	学級	児童	学級	児童	学級	児童
日進	6	89	6	83	6	97	6	98	6	95	6	99
川添	6	60	6	59	5	60	5	57	5	55	4	45
三瀬谷	8	204	7	184	7	170	7	165	7	163	6	140
宮川	6	103	6	96	6	83	6	80	6	79	6	75
合計	26	456	25	421	24	410	24	400	24	392	22	359
小学校	R2		R3		R4		R5		R6			
	学級	児童	学級	児童	学級	児童	学級	児童	学級	児童		
日進	6	87	6	89	6	73	6	74	6	78		
川添	4	39	4	36	4	34	4	26	3	23		
三瀬谷	6	143	6	144	6	151	6	138	6	132		
宮川	6	76	6	72	6	77	6	75	6	73		
合計	22	345	22	341	22	335	22	313	21	306		

※学級数は普通学級数のみ。三重県基準にて算出

児童数の推移(H20～R7)



町内の小学校の児童数は、平成20年度まで、総児童数が500人を超えていましたが、その後、少しずつ減少しながら、平成30年度には、総児童数が400人以下になりました。そして、令和7年度には、総児童数が300人以下となりました。

各小学校の状況を見てみると、川添小学校は、平成27年度以前にも1複式学級や2複式学級になりながら、児童数の増減を繰り返しています。平成26年度から2年間は、全学年単式学級になりましたが、平成28年度からは、複式学級が解消することなく、3複式学級や2複式学級になっています。

また、宮川小学校は、令和8年度から1複式学級になり、児童数も少しずつ減少しながら、令和12年度に児童数が50人以下となることが推定されます。

日進小学校においても、令和9年度から1複式学級となり、児童数も少しずつ減少していくことが推定されます。

三瀬谷小学校は、児童数の減少が顕著になると推定されており、令和10年度には児童数が100人以下となり、令和13年度に現状の半数程度となることが推定されます。

(3) 大台町立小学校の校舎等の状況について

学校名	建物名	建築年	経過年数 (R8.4 現在)	耐震 基準	耐震 診断	耐震 補強	避難所 指定	健全度 (R2.3 現) 100 点	今後の 方針
日進小学校	校舎	S39(1964)	61	旧	済	済	有	66	長寿命化
	体育館	S54(1979)	46	旧	済	済		52	
	特別教室棟	H10(1998)	27	新	-	-		84	
川添小学校	校舎	S36(1961)	64	旧	済	済	有	62	廃止 統合
	体育館	S53(1978)	47	旧	済	済		55	
	管理教室棟	S60(1985)	40	新	-	-		77	
	教室棟	H12(2000)	25	新	-	-		100	
三瀬谷小学校	校舎	S37(1962)	63	旧	済	済	無	66	長寿命化
	体育館	H21(2009)	16	新	-	-		81	
	プール付属棟	H22(2010)	15	新	-	-		81	
宮川小学校	校舎	H10(1998)	27	新	-	-	無	67	長寿命化
	体育館	H10(1998)	27	新	-	-		72	
	プール付属棟	H10(1998)	27	新	-	-		77	

参考：大台町公共施設個別施設計画（令和3年3月）：大台町学校施設長寿命化計画（令和2年3月）を修正

健全度を見れば、低い数値（52、55）も見られますが、劣化状況調査も行われており、特に安全性に問題がある施設はありません。適切に維持、改進を進める必要があります。

令和8年4月現在、建設から30年以上経過する校舎や体育館等が6棟、全体の46%、40年以上経過するものが6棟、全体の46%、60年以上経過するものが3棟、全体の23%を占めるなど、施設の老朽化が進んでおり、機能面や安全面での対策が必要となっており、特に3棟の校舎は60年を経過しているため、安全面での対策が急務となっています。

【参考資料】各学校の校舎等の状況

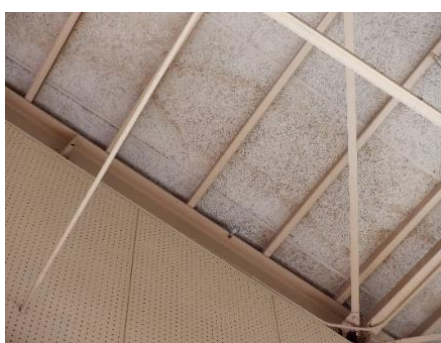
〔「大台町学校施設長寿命化計画（R2）」劣化状況調査結果及び現状調査より〕

○日進小学校

- ・ 「管理教室棟（S39）」は、屋根（H27）及び外壁（H21）、内部（H23）の大規模改修がされており、月日が経過していますが概ね良好です。
- ・ 「屋内運動場（S54）」は、屋根の大規模改修がされており良好です。但し、外壁は39年経過しているため、劣化が進んでおり、特に「塗装やタイルの剥がれ」や「大きな亀裂」が多くみられます。
- ・ 「特別教室棟（H10）」は、建築年が比較的新しいため、全体的に良好です。



【劣化状況】雨漏り被害



【劣化状況】ひび割れ被害



（各小学校の視察より）

3階、体育館の雨漏りがひどいです。

プールの維持が大変であり、また、バルブの調整など教職員間の引継ぎも大変です。

○川添小学校

- ・ 「管理教室棟1 (S36)」は、屋根及び外壁 (H22) の大規模改修がされており、月日が経過していますが良好です。また、築64年であり、大台町で一番古い校舎となります。内部仕上げ等については、大規模改修 (H5) をしているが経年による劣化がみられます。
- ・ 「屋内運動場 (S53)」は、築47年が経過しているものの屋根は、耐震補強時に屋根を改修しているため良好です。また、外壁も改修工事がされているため良好です。内部仕上げ等については、経年による劣化がみられます。
- ・ 「管理教室棟2 (S60)」の屋根及び外壁は、改修工事されており概ね良好です。



【劣化状況】雨漏り被害



【劣化状況】ひび割れ被害



(各小学校の視察より)

3階図書室の雨漏りがひどいです

3階の電気をつけるとブレーカーが落ちるので、時間割が重なると大変になります。

2階の手洗い場の水が止まってしまいます。

○三瀬谷小学校

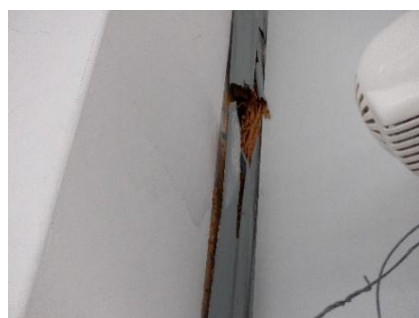
- ・ 「教室棟（S37）」は、築63年と古い校舎ですが改修工事を行っているため、屋上及び外壁（H22塗装工事）は、部分的には劣化があるものの概ね良好です。また、内部仕上げについても大規模改修（H4）をしているため、部分的には劣化があるものの良好です。
- ・ 「屋内運動場（H21、木造）」は、比較的新しい建築物ですが、ひさし部分のひび割れが目立ちます。内部は、建築が比較的新しいため良好です。
- ・ 「プール附属棟（H22）」は、比較的新しい建築物ですが、タイルの浮きが目立ちます。



【劣化状況】ひび割れ被害



【劣化状況】シロアリ被害



（各小学校の視察より）

壁にひびが入ってきており、強度面で心配です。

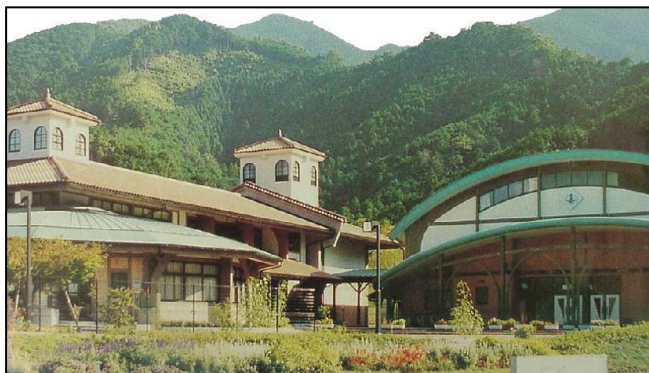
水関係で家庭科室の地下で漏れていそうだが、直すことも困難なため、使用しないときは元栓からしめるようにしています。

1階の木造部分がシロアリで劣化しています。

校舎裏にため池や山があり、避難所に指定されていません。

○宮川小学校

- ・ 「管理教室棟（H10）」は、比較的新しいものの木造建築のため雨漏りや外壁の腐食が一部みられ、外壁からの雨漏りが多数みられます。
- ・ 「屋内運動場（H10）」は、屋根の損傷（瓦棒抑え材のずれ）や雨漏り痕がみられます。



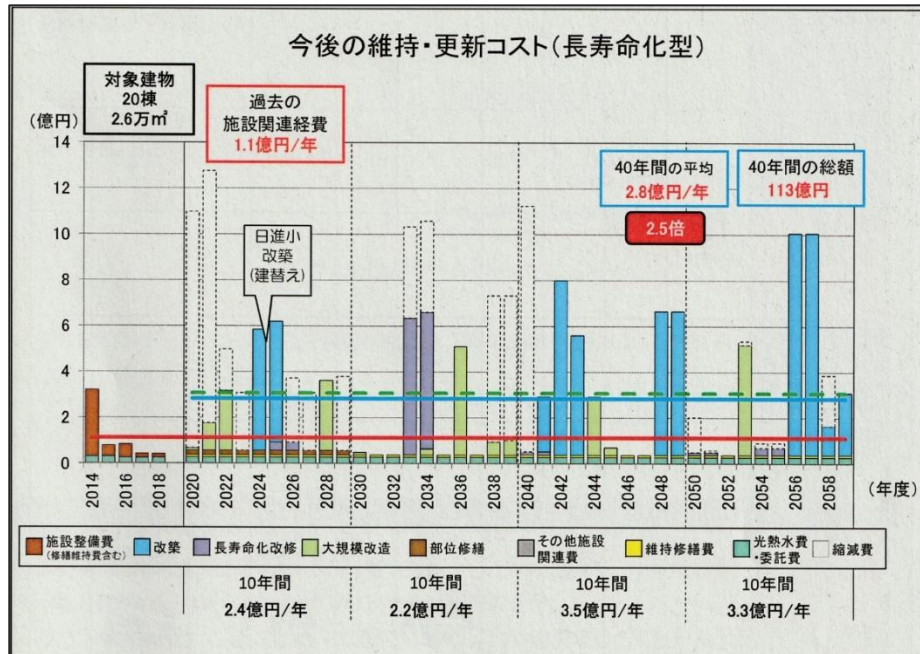
【劣化状況】外壁及び雨漏り被害



（各小学校の視察より）

複式に対応できる環境整備が必要です。
施設面では、そこまで大きな問題はありません。

令和2年3月に策定された「大台町学校施設長寿命化計画」によると、改修等の優先順位づけを考慮し、長寿命化改修を実施した場合、今後40年間の維持・更新コストは総額113億円（年平均2.8億円）となります。「従来型」から「長寿命型」に変更していくことで、従来型（総額123億円）より10億円、約8.1%の経費削減が期待できるとされています。



試算条件

- 工事費単価

工種	周期	単価		
		校舎	体育館	その他
改築	80年	330,000円/㎡		
長寿命化改修	40年	198,000円/㎡ (改築単価×60%)		
大規模改造	20年	82,500円/㎡ (改築単価×25%)	72,600円/㎡ (改築単価×22%)	82,500円/㎡ (改築単価×25%)

- 改築・長寿命化改修: 工事期間 2年
- 大規模改造: 工事期間 1年

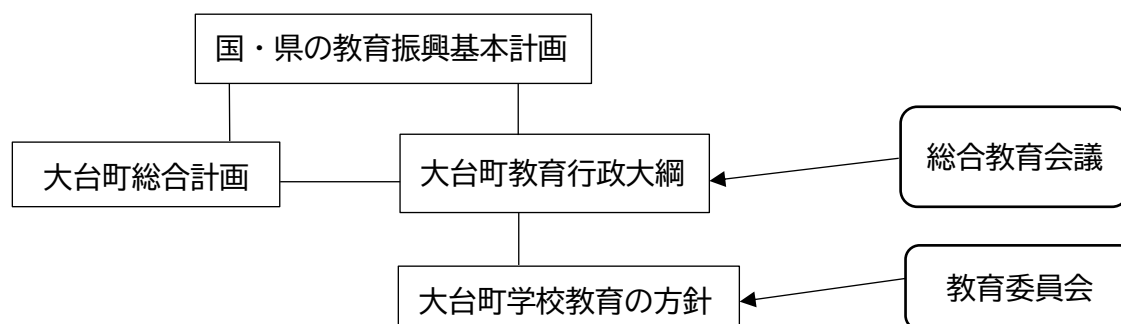
〔「大台町学校施設長寿命化計画」より〕

上記の「今後の維持・更新コスト（長寿命化型）」では、日進小学校の改築が計画に入っていますが、予定通りに計画が進まず計画は白紙になりました。

また、その後の社会の情勢を鑑みれば、物価の高騰や建築資材の高騰などが起こっていますので、当時の計画を大きく変更していく必要も考えられます。

2. 大台町がめざす教育

(1) 大台町教育行政大綱について



大台町では、令和4年4月に、教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策について、その目標や施策の根本となる方針を定めるものとして「大台町教育行政大綱」を策定しています。

『ふるさとの自然と文化を誇りに思える人づくり』を基本理念として、大台町の教育を推進しています。

- 基本方針
- ① 幼児期の保育・教育と子育て支援の充実
 - ② 小・中学校教育の充実
 - ③ 郷土愛を育む教育の推進
 - ④ 環境教育の推進
 - ⑤ 生涯にわたる学習環境の整備
 - ⑥ 歴史・文化遺産の保護

(2) 大台町学校教育の方針

①基本目標 「ふるさとを愛し、自ら学ぶ意欲に満ちた子どもの育成」

②基本方針

子どもたち一人ひとりが明日への希望を持ち、自ら学び、自ら考え、行動する力と他者を思いやり、共に支え合い生きる力を育みます。そのため、次の9つの基本方針に沿って学校教育活動に取り組んでいます。

- 確かな学力の向上
- 人権教育の推進
- 道徳教育の推進
- 特別支援教育の推進
- 体力の向上と健康教育の推進
- 郷土を学ぶ教育の推進
- 安全で安心な学びの場づくり
- 信頼される学校づくり
- 教職員の指導力の向上と職場環境の改善

③具体的な取組み

- ア) 確かな学力の向上を図ります
- イ) 人権教育を推進します
- ウ) 道徳教育を推進します
- エ) 特別支援教育を推進します
- オ) 体力の向上と健康教育を推進します
- カ) 郷土を学ぶ教育を推進します
- キ) 安全で安心な学びの場づくりに取り組みます
- ク) 信頼される学校づくりに取り組みます
- ケ) 教職員の能力の向上と職場環境の改善を図ります

3. 「大台町の子どもたちのより良い教育環境を考える」アンケート

令和7年7月から9月にかけて実施したアンケート調査の結果を分析し、その概要をお示ししています。

I 調査の概要

1 目的

大台町では、児童生徒数の減少や校舎の老朽化などがみられ、将来に向けて町内の小中学校のあり方を考えることが必要となってきました。

町内の中学校については、地域の方や保育園の保護者、小中学校の保護者との懇談を実施しながら、今後のあり方を検討しています。

町内の小学校については、令和7年度「大台町立小学校のあり方検討委員会」を設置し、これまでの町の計画や取り組みを踏まえて検討をしています。

本アンケートは、保育園や小中学校の保護者をはじめ、児童生徒を含めて多くの方からのお考えやご意向を把握し、検討委員会での議論を充実させることを目的とします。

2 調査期間・方法

期 間：令和7年7月14日（月）から8月8日（金）

再周知期間：令和7年9月1日（月）から9月15日（月）

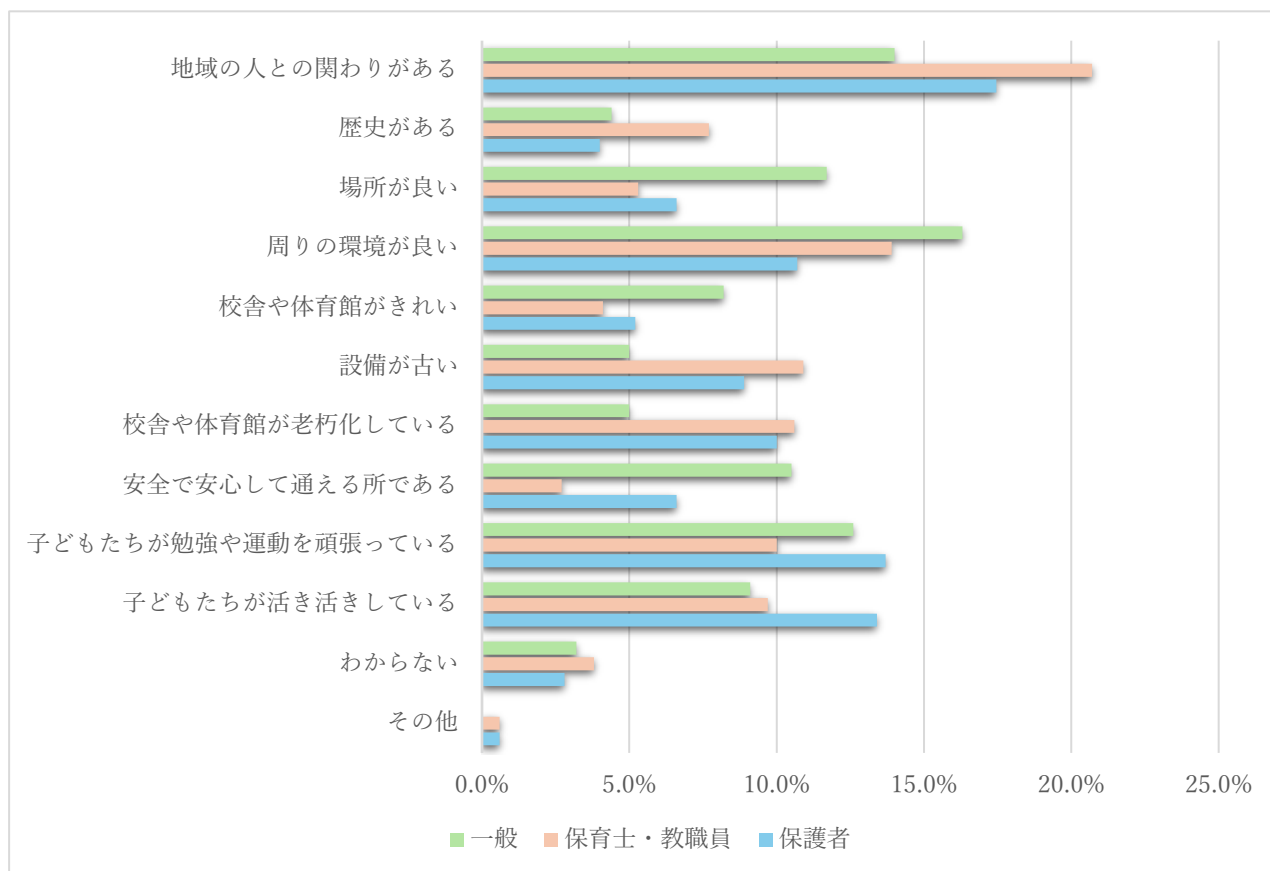
インターネット、紙による調査票にて実施。

3 対象者・回答率

調査対象者	対象者	回答者	回答率
保護者（保育園・小学校・中学校）	531人	295人	55.56%
児童生徒（小学4年生から中学3年生）	332人	322人	96.99%
保育士・教職員	118人	98人	83.05%
一般 区長・学校評議員・商工会・民生委員 児童委員・主任児童委員・人権擁護委員	142人	110人	77.46%
計	1,123人	825人	73.46%

(1) 調査結果

① あなたの地域にある小学校をどのように思われていますか。

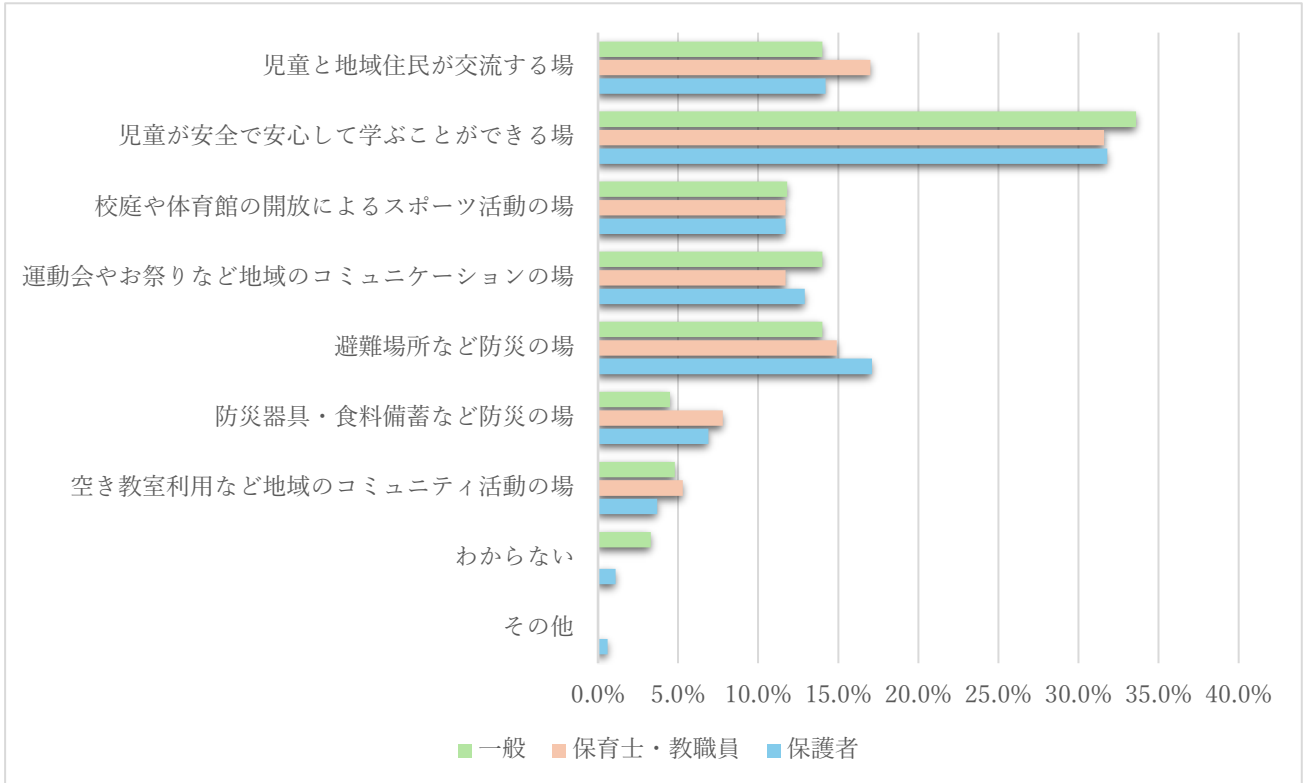


	地域の人との関わりがある	歴史がある	場所が良い	周りの環境が良い	校舎や体育館がきれい	設備が古い
■一般	14.0%	4.4%	11.7%	16.3%	8.2%	5.0%
■保育士・教職員	20.7%	7.7%	5.3%	13.9%	4.1%	10.9%
■保護者	17.5%	4.0%	6.6%	10.7%	5.2%	8.9%
	校舎や体育館が老朽化	安全で安心して通える所	子どもたちが勉強や運動を頑張っている	子どもたちが生き生きしている	わからない	その他
■一般	5.0%	10.5%	12.6%	9.1%	3.2%	0.0%
■保育士・教職員	10.6%	2.7%	10.0%	9.7%	3.8%	0.6%
■保護者	10.0%	6.6%	13.7%	13.4%	2.8%	0.6%

回答傾向を見ると、学校の強みは「地域とのつながり」と「子どもの学び・活動の前向きさ」に集約されます。特に地域連携はどの調査対象者でも上位で、学校が地域資源に支えられている認識が共有されています。一方、施設面では「きれい」よりも「古い・老朽化」が上回り、学習環境の質や維持管理への不安が一定層に存在します。一般は立地・周辺環境・安全安心の評価が比較的高く、外部から見た通学環境の安心感が特徴です。教職員は地域連携評価が最も高い反面、安全安心の割合が低く、日常のリスク認識の差が示唆されます。

また、その他の意見として、通学時間や通学方法、学童等への不安の声もありました。

② 地域にある小学校の役割



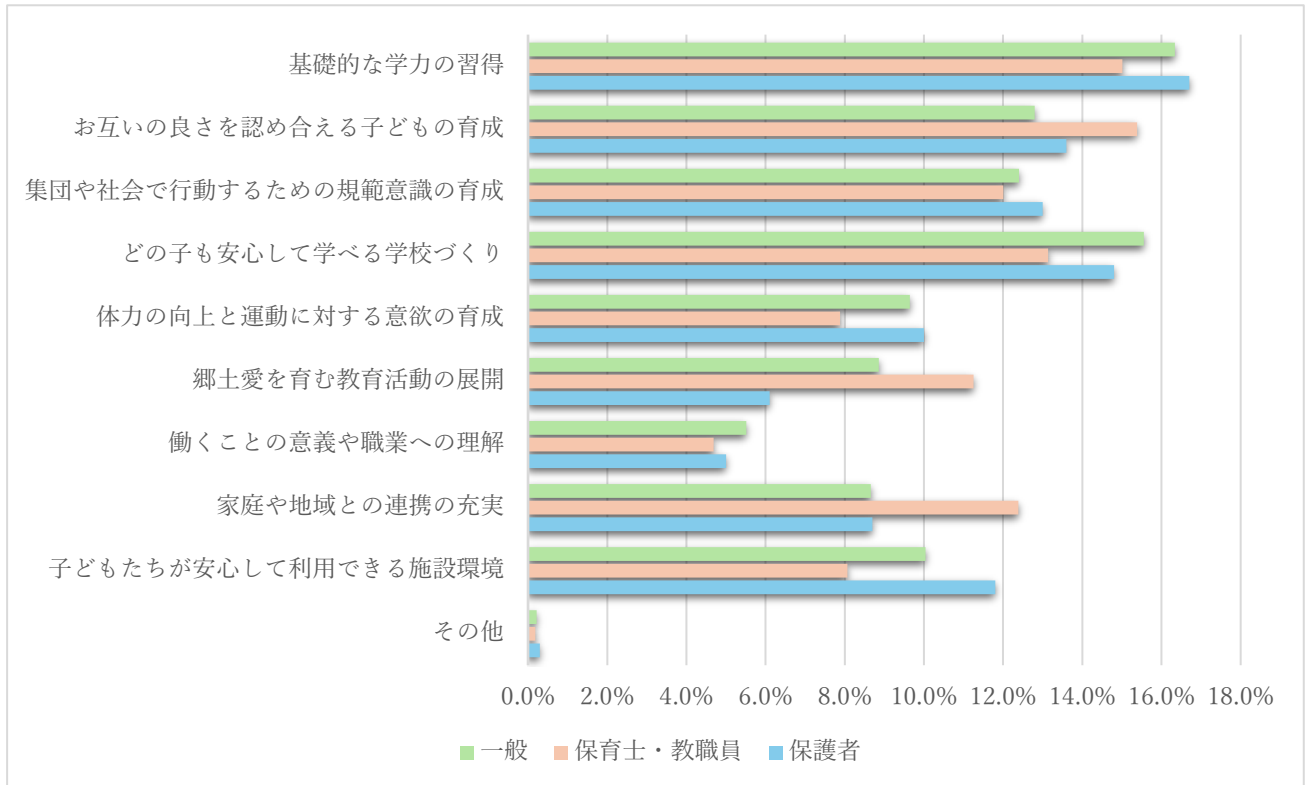
	児童と地域住民が交流する場	児童が安全で安心して学ぶことができる場	校庭や体育館の開放によるスポーツ活動の場	運動会やお祭りなど地域のコミュニケーションの場	避難場所など防災の場
■一般	14.0%	33.6%	11.8%	14.0%	14.0%
■保育士・教職員	17.0%	31.6%	11.7%	11.7%	14.9%
■保護者	14.2%	31.8%	11.7%	12.9%	17.1%
	防災器具・食料備蓄などの防災の場	教室利用など地域のコミュニティ活動の場	わからない	その他	
■一般	4.5%	4.8%	3.3%	0.0%	
■保育士・教職員	7.8%	5.3%	0.0%	0.0%	
■保護者	6.9%	3.7%	1.1%	0.6%	

どの調査対象者も回答傾向がほぼ一致しており、小学校の役割認識は「まず学びの場の安全・安心」に集約されています(約3割で最多)。次点の「避難場所」も一定の比率(1.4-1.7割)があり、教育施設であると同時に地域インフラとして期待されていることが読み取れます。

一方、交流・行事・スポーツは各1割前後に分散し、地域機能は重要だが優先順位は相対的に下位です。さらに、防災備蓄や空き教室活用は低率で、学校の資源を地域活動へ広げるイメージが十分共有されていない可能性があります。一般で「わからない」がやや多い点は、情報発信不足の示唆です。

また、その他の意見として、「子ども第一で、価値観の多様性と教育を受ける権利を最大限に保障する場であってほしい」「安心安全な立地・防災面を確保し、土砂災害等の不安をなくすこと」「エアコン等の学習環境やスポーツも含めた施設を充実させ、挑戦や失敗から学べる居場所にする」などの意見がありました。

③ 大台町の小学校教育において大切なこと

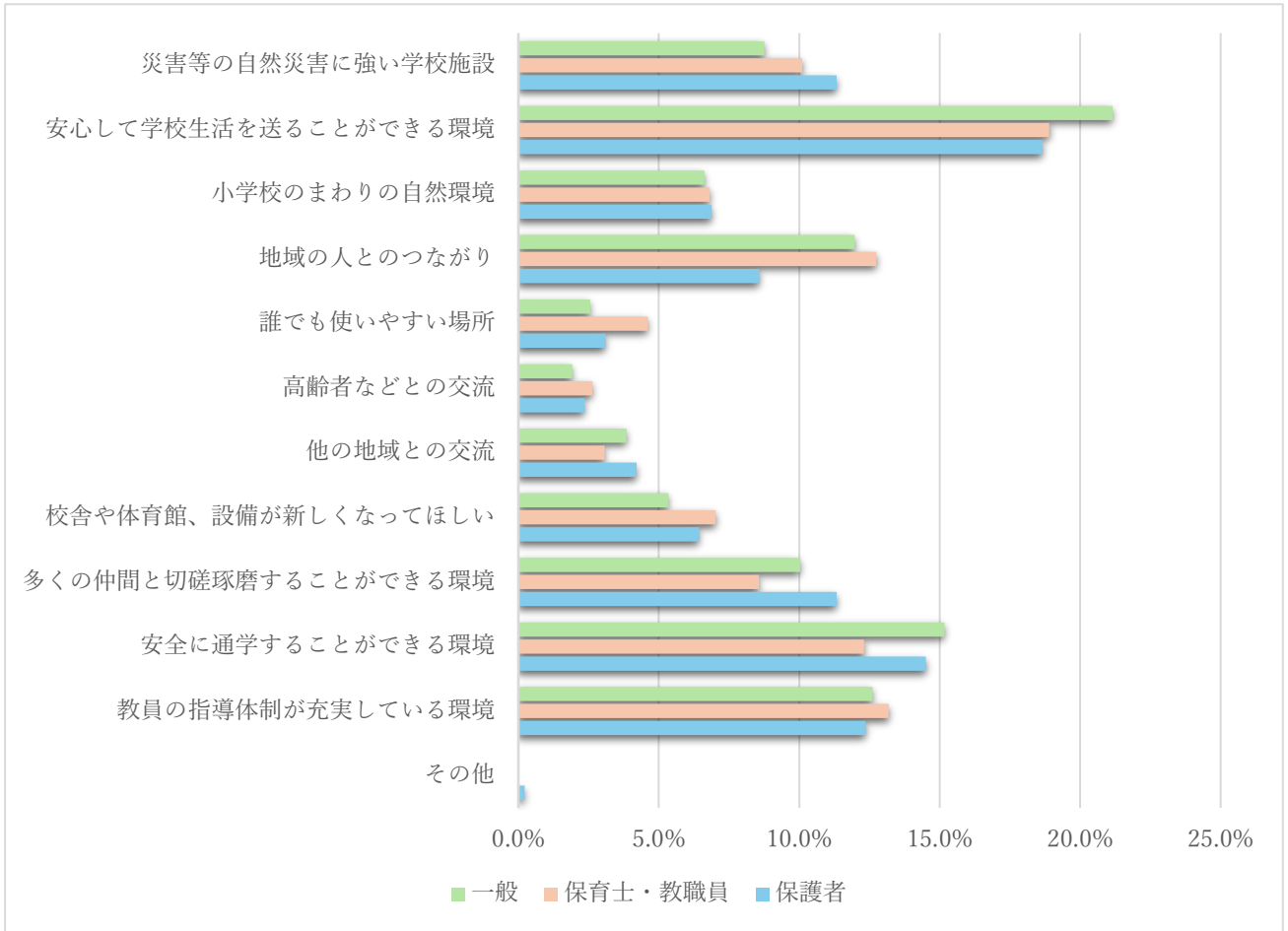


	基礎的な学力の習得	お互いの良さを認め合える子どもの育成	集団や社会で行動するための規範意識の育成	どの子ども安心して学べる学校づくり	体力の向上と運動に対する意欲の育成
■一般	16.3%	12.8%	12.4%	15.6%	9.6%
■保育士・教職員	15.0%	15.4%	12.0%	13.1%	7.9%
■保護者	16.7%	13.6%	13.0%	14.8%	10.0%
	郷土愛を育む教育活動の展開	働くことの意義や職業への理解	家庭や地域との連携の充実	子どもが安心して利用できる施設環境	その他
■一般	8.9%	5.5%	8.7%	10.0%	0.2%
■保育士・教職員	11.3%	4.7%	12.4%	8.1%	0.2%
■保護者	6.1%	5.0%	8.7%	11.8%	0.3%

結果からは、重視点が大きく3つに整理できます。第1に学力で、どの調査対象者とも最多となり、基礎の定着が共通課題であることが示唆されます。第2に安心・関係性・規範で、「安心して学べる」「互いを認め合う」「規範意識」がいずれも1割強で並び、学力を支える土台として学校の安全性や集団づくりを求める声が強いと読めます。第3に地域性で、教職員等は「郷土愛」「家庭・地域連携」が相対的に高く、地域資源を教育に生かしたい意図が見えます。一方、体力や職業理解は優先度がやや低く、まず学習と安心の確保が求められている状況と考えられます。

また、その他の意見として、「大台町の自然を生かした体験型学習を軸に、小規模校ならではの丁寧な支援で子どもの素質を伸ばす環境を整える」「あいさつ等の基本的な生活習慣も育む」「通信・プログラミング等の先進教育や有機給食・栽培を取り入れ、地域課題を考える学びも推進」「多様な価値観に触れる機会と、過剰に手をかけない自立支援を両立する」「移住の魅力にもつなげる」との意見がありました。

④ より良い教育環境を考えた時、特に大切にすべきこと

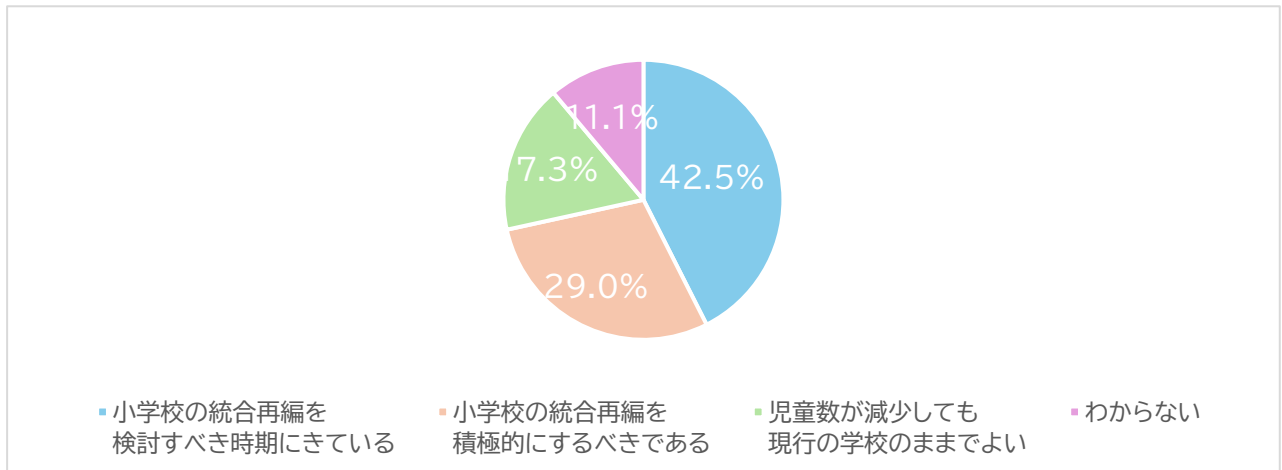


	自然災害に強い 学校施設	安心して学校生活を送 ることができる環境	小学校のまわり の自然環境	地域の人との つながり	誰でも使い やすい場所	高齢者など との交流
■一 般	8.8%	21.2%	6.6%	12.0%	2.6%	1.9%
■保育士・教職員	10.1%	18.9%	6.8%	12.7%	4.6%	2.6%
■保護者	11.3%	18.7%	6.9%	8.6%	3.1%	2.4%
	他の地域 との交流	校舎や体育館、設備が 新しくなってほしい	多くの仲間と切磋琢磨 することができる環境	安全に通学するこ とができる環境	教育の指導体制が 充実している環境	その他
■一 般	3.8%	5.3%	10.0%	15.2%	12.6%	0.0%
■保育士・教職員	3.1%	7.0%	8.6%	12.3%	13.2%	0.0%
■保護者	4.2%	6.4%	11.3%	14.5%	12.4%	0.2%

全体傾向として、回答は「安心・安全」に強く集約しています。最多は「安心して学校生活を送れる環境」で、学校内での見守り、いじめ・不安への対応、健康面の配慮など“毎日の安心”が最優先と読めます。次点の「安全に通学」と「災害に強い施設」も含め、生活圈全体のリスク低減が重視されています。

一方で「教育の指導体制」も同程度に高く、安全基盤の上で学びの質向上を求める構図です。教職員は「地域の人とのつながり」を相対的に重視し、学校が地域と協働する拠点として期待されていることがうかがえます。また、その他の意見として、「有機給食など食の安全と、プログラミング等の先進教育を推進」「移住者に差別のない環境づくりと、家庭での関わりを深める保護者支援も重視」との意見がありました。

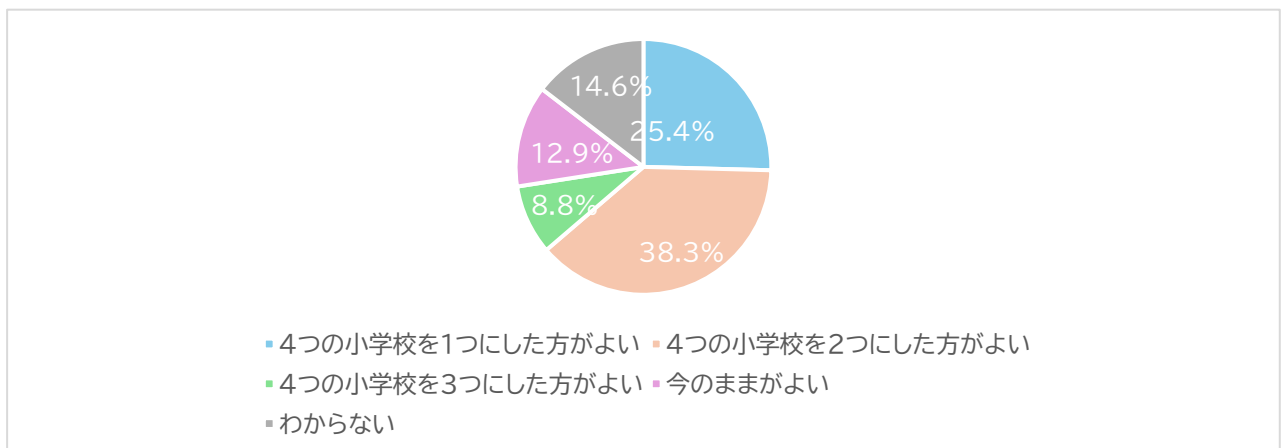
⑤ 児童数の減少への対応として望ましいと思うこと



児童数減少への対応として「統合再編を検討すべき時期(42.5%)」「積極的に統合再編(29.0%)」が計71.5%を占め、小学校の統合再編に前向きな意見が多数派であることが明確です。対象が保護者に加え、保育士・教職員、地域一般まで幅広い点を踏まえると、学校運営や教育条件(学級規模、教職員配置、行事・部活動、特別支援や多様な学び、施設維持等)に対する将来不安が共有されている可能性が高いです。

一方で「現行の学校のままでよい」(17.3%)も一定数あり、通学負担、地域コミュニティの核としての学校、きめ細かな教育への期待が背景として想定されます。「わからない」(11.1%)は情報不足や判断材料の不足を示唆し、丁寧な説明の必要性と考えます。

⑥ 大台町全体のことや通学距離などを考えた時、4小学校をどのように統合再編することが望ましい



統合再編に関する回答は、「4校を2校へ」が38.3%で最多となり、「1校へ」25.4%を大きく上回りました。これは、教育環境の充実(一定規模の集団、多様な学び・行事、教職員体制)を求めつつも、通学距離や安全、地域とのつながり、低学年の負担増といった懸念から、急進的な一極集中よりも現実的な折衷案として、2校案が支持された可能性が高いと考えられます。

一方で「現状維持」12.9%に加え「わからない」14.6%が一定数あり、再編の必要性や効果、具体案(候補地、通学手段、放課後・特別支援、災害時対応)の情報が十分に共有されていない層が存在します。「3校へ」8.8%は少数で、規模確保の効果が限定的と受け止められた可能性があります。

(自由意見のまとめ)

4つの小学校を1つにした方がよい

4小学校を1校に統合するのが望ましいとする理由は、主に「将来の児童数減と財政を踏まえた集約の必要性」と「一定規模の集団で学ぶ教育的効果」に整理できます。

人口減少で児童数が今後も確実に減る中、複数校を維持すると維持管理費・修繕費・建替え費・人件費などが人数に見合わず、投資が分散して非効率になるという懸念が強いと思われます。2校や3校にしても、さらに減った段階で再統合の議論が起こり、結果的に無駄や負の遺産を生みかねないため、最初から4校を一度に統合し、予算を集中させて新校舎整備や安全対策、学童環境などに充てるべきだという意見が多くありました。

教育面では、少人数化により複式学級の増加や、クラブ活動（団体競技等）の成立困難、学び合いや多様な経験の機会が減ることが課題として挙げられました。人数が少ないと人間関係が固定化しやすく、クラス替えができない、いじめ等が起きた際に逃げ場が少ない、といった不安もありました。より多くの子どもと関わり切磋琢磨することが、社会性やコミュニケーション力、多様性理解を育て、進学後に大人数環境へ適応する助けになるという考えがありました。

教職員や教材等のリソースを1校に集めることで指導体制を厚くし、子どもへの目配りを高め、教職員の業務分担の偏りを減らして働き方改革にもつながるのではないかと、という期待も示されました。一方で最大の課題は通学であり、通学路の安全確保やスクールバス運行、公共交通の活用など、距離・時間の負担を抑える仕組みづくりが不可欠とされました。通学面を整えた上で、町全体の公平性と将来を見据え、1校に集約して教育環境を充実させるべきだ、というのが共通した趣旨でした。

4つの小学校を2つにした方がよい

4校を2校にする案の回答理由は、「1校への集約は通学距離・通学時間が長くなり、児童の負担や安全面の不安が大きい」という点に集約されます。

大台町は東西に長く広域で、特に宮川地区(大杉谷を含む)は三瀬谷方面などへの移動が長時間になり得ることから、低学年には厳しい、登校が早朝になる、体力・精神面への影響が心配といった声が目立ちました。大雨警報時等の対応差も含め、1校化は現実的に難しいとする意見がありました。加えて、スクールバス通学が増える場合、乗り降り時の事故、車との接触、置き去りなどの重大事故への懸念が示され、徹底した安全対策を求める意見がありました。

一方で、児童数減少により学校規模が小さ過ぎると、行事や学習活動の幅が狭まる、友人関係が固定化して合わない相手がいると孤立しやすい、不登校やいじめに発展し得る、といった不安が語られています。そのため、多すぎず少なすぎない適正規模で、教職員の目が行き届きつつ、子どもが多様な仲間と関わり社会性や規範意識を育める環境が望ましいという考え方が背景にあります。

統合の組み合わせとしては、地理的条件から「三瀬谷+宮川」「日進+川添」が妥当とする意見が多くある一方で、宮川小は地域の結びつきや施設面(比較的新しい校舎)から存続を望む声も見られました。

老朽化への対応や運営コスト削減の観点から統合はやむを得ないとしつつ、まず2校化して将来的に再検討する段階的な進め方、既存校舎の活用、広域連携の必要性に言及する意見もありました。

4つの小学校を3つにした方がよい

4校を一気に1-2校へ統合するのは、大台町の広さや宮川-三瀬谷間などの距離を踏まえる
と通学バスの長時間化につながり、特に低学年には体力面・生活面で負担が大きいという意見
が多くありました。保護者が緊急時に駆けつけられる距離、放課後に友だちと遊びやすい範囲
も重視されました。児童数の減少によりこのままでは厳しく、複式学級の増加、教職員不足や
教職員の負担、維持費などから統合検討は避けられないとの認識も示されました。

小規模校では人間関係が固定化しやすく、同級生がある程度いる方がよい、早い段階から多
様な友人関係を経験させたいという声もありました。具体的には、学童などで既に関わりがあ
り複式が多い日進-川添をまず統合して3校体制とし、三瀬谷・宮川は当面存続し、将来の児
童数推移を見て段階的に再編する案が支持されました。

学校は地域の核であり、廃校が地域衰退を加速させる懸念も語られました。

今のままだがよい

現状の4小学校のままだがよいとする理由は、統合によって通学距離が伸び、スクールバス利
用が増えることへの不安が大きいからです。特に低学年にとって長時間乗車は身体的・精神的
負担となり、登校意欲や学習意欲への影響も懸念されています。バス通学は事故リスク、乗り
遅れ時の対応、保護者の送迎負担（共働きや祖父母対応を含む）など課題が多く、徒歩圏で通
える学校が安心という声が目立ちました。大台町は地形が細長く、すでに通学に時間を要する
地域があるため、これ以上の遠距離化は児童・家庭双方の負担増につながるとされています。

学校は災害時の避難場所や安否確認の拠点であり、各地域に校舎があることが安全・安心に
つながるといった意見がありました。

小学校は地域の文化や行事、人のつながりを育む場で、地域住民の交流拠点でもあるため、
統合で学校がなくなると地域の活気が失われ、人口減少や過疎化が進むことを心配する声もあ
りました。

少人数の良さ（丁寧な指導、複式を含む学年を超えた関わり）を評価し、児童減少対策の検
証やリモート交流等の工夫を優先すべきだとする意見も見られました。

わからない

「わからない」と回答した人の理由は、統合・現状維持のどちらにも利点と課題があり、何
を最優先すべきか決めきれない点に集約されます。

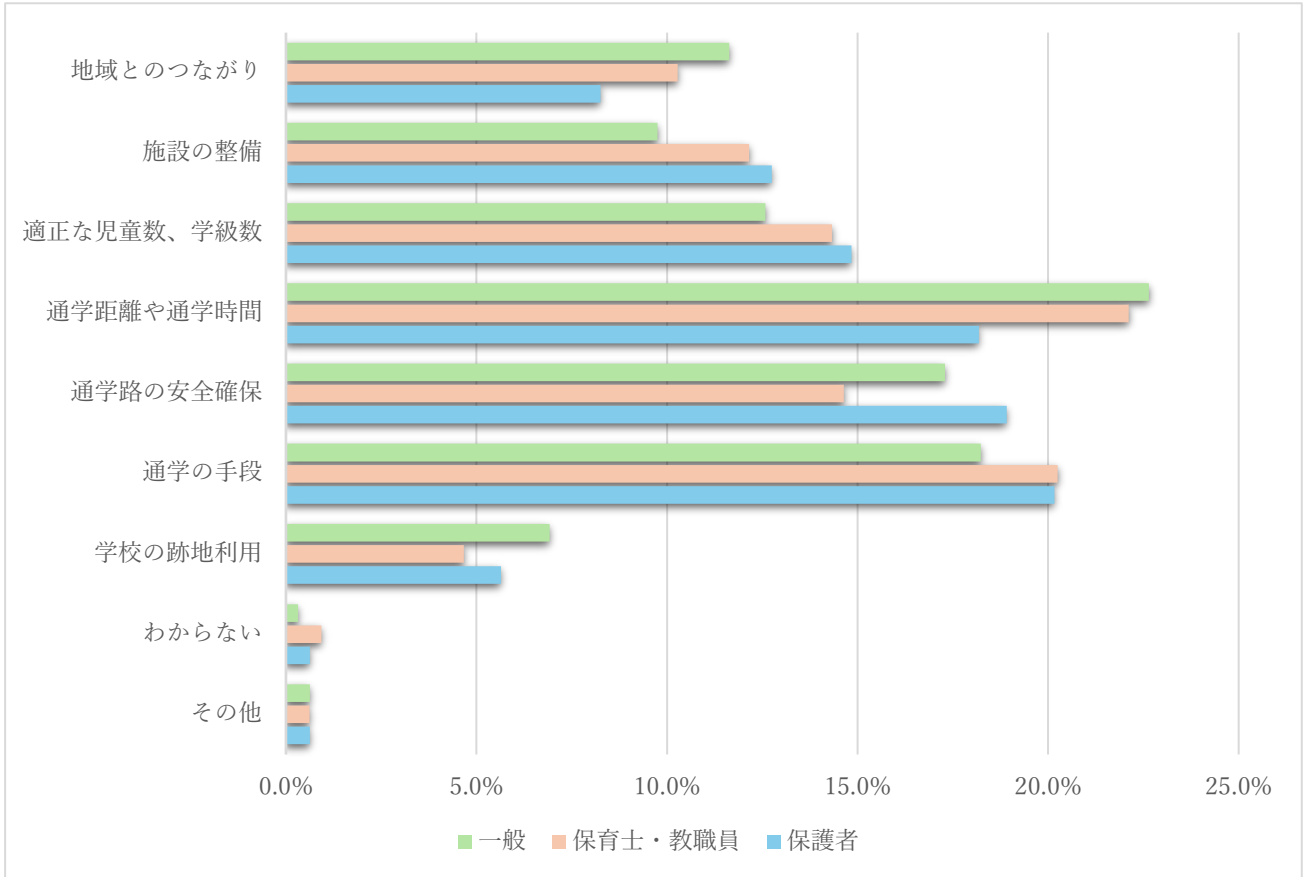
大台町は面積が広く、統合すると小学生にとって通学距離・通学時間が長くなる負担が大き
いこと、地域によって時間差が大きいこと（宮川地区から大台地区、大杉地域など）への懸念
が強いです。

児童数に対して学校数が多く統合は必要と感じつつも、学校が地域からなくなることで過疎
化が進む不安や、地域ごとに考え方が異なるため一律に決めにくいという声もありました。

各校の施設・設備の状況が分からず判断できない、勤務年数が浅い・町外在住で実情を把握
していないため答えづらい、といった情報不足・当事者性の違いも理由として挙がりました。

統合後の校舎については、既存施設の活用を望む意見と、南海トラフ地震や自然災害、猛暑
への対応を踏まえ安全性の高い新校舎を求める意見があり、規模も1校化から2校程度、統合
順の提案まで幅が見られました。

⑦ 小学校が統合再編される場合、特に重視すべきこと



	地域とのつながり	施設の整備	適正な児童数、学級数	通学距離や通学時間	通学路の安全確保
■一般	11.6%	9.7%	12.6%	22.6%	17.3%
■保育士・教職員	10.3%	12.1%	14.3%	22.1%	14.6%
■保護者	8.3%	12.7%	14.8%	18.2%	18.9%
	通学の手段	学校の跡地	わからない	その他	
■一般	18.2%	6.9%	0.3%	0.6%	
■保育士・教職員	20.2%	4.7%	0.9%	0.6%	
■保護者	20.2%	5.6%	0.6%	0.6%	

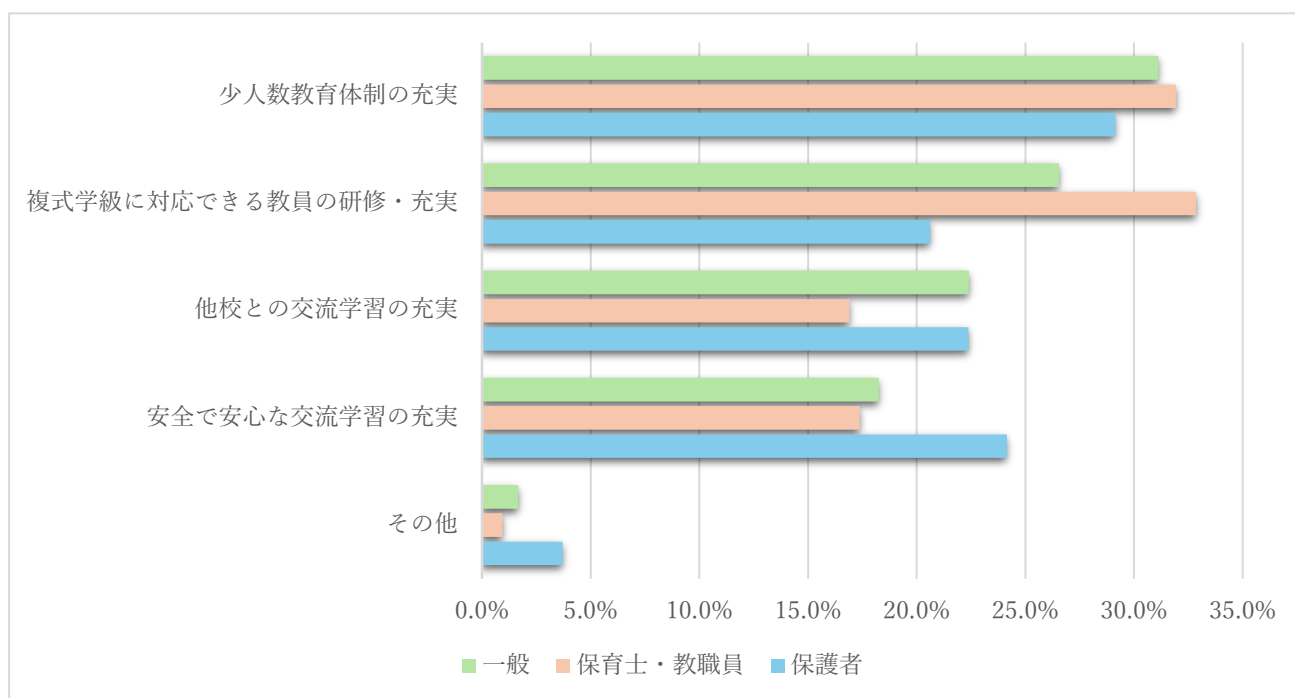
全体傾向として、統合再編の論点は「教育の中身」より先に、毎日の生活に直結する通学の現実性に集中しています。特に教職員は「通学距離・時間」が最上位で、登下校の負担が学習意欲や欠席、家庭の送迎負担に波及することを意識している可能性があります。

保護者は「通学の手段」「安全確保」も高く、移動手段の確実さと事故リスク低減をセットで求めています。

一方、「適正規模」や「施設整備」も一定割合があり、統合のメリット（学級編制、教育活動の幅、環境改善）への期待も併存しています。地域・跡地は優先度が相対的に低い結果です。

また、その他の意見として、「学校の魅力化や学童の校内受入れで移住促進と保護者の安心につなげ、統合前にできる取組を進めたい」「教職員体制の充実、複式回避や活動機会の確保、統合時の心理的ケアと学力差調整、コミュニティスクール設置等を求める」がある一方で統合再編に反対の意見もありました。

⑧ 小学校が統合再編しない場合、特に重視すべきこと



	少人数教育体制の充実	複式学級に対応できる教員の研修・充実	他校との交流学习の充実	安全で安心な交流学习の充実	その他
■一般	31.1%	26.6%	22.4%	18.3%	1.7%
■保育士・教職員	31.9%	32.9%	16.9%	17.4%	0.9%
■保護者	29.1%	20.6%	22.4%	24.2%	3.7%

統合再編を行わない場合に重視すべき点は、どの調査対象者も「少人数教育体制の充実」が最多(約3割)となり、現状の規模を前提にきめ細かな指導をどう維持・強化するかが最大の関心事といえます。

次に特徴的なのは、保育士・教職員で「複式学級に対応できる教員の研修・充実」(32.9%)が高い点で、複式の指導力や授業づくり、校内体制の支援など専門性の底上げが強く意識されています。

一方、保護者・一般では「他校との交流学习」や「安全で安心な交流」が2割前後あり、少人数による刺激の不足を補うための学びの多様性と、移動・活動時の安全確保の両立が求められています。その他は少数でした。

その他の意見として、統合再編を求める声が多く、現行のままは安全面(耐震・南海トラフ)や学習環境(複式・少人数による固定化、友人関係、競争機会)から難しいという意見が目立ちます。一方で、統合が全てではなく、魅力ある小規模校の視察や研修、少人数教育の充実(教職員・支援員増、他校との交流、オンライン活用、外部講師)を進め、地域性を生かした教育を望む声もあります。

その他 統合再編に関する自由意見のまとめ

少子化が進む大台町では、学校の統合再編を「地域の感情や大人の都合より、子どもたちの学びと育ちを最優先に」早期に進めるべきだという意見が多くありました。これまで、統合の話が「出ては消え、先送りが続く」「アンケートばかりで進まない」と受け止められており、行政や議会の危機感・スピード感の不足を指摘する声が目立ちます。反対意見が一定出るのは当然としても、全員一致は不可能である以上、行政が責任を持って方針を示し、多少強引でも統合に向けて積極的に指揮を執るべきだという要望が強いと考えられます。

統合するなら、制服や体操服の購入、進学準備、家計の見通しが立つように、少なくとも2年前には「いつ統合するのか」を明確に知らせてほしいという意見も複数みられました。

統合推進の理由としては、現在の児童生徒数では教育活動が制限され、子どもにとって十分な環境ではないという危機感が挙げられます。少人数環境では、保育園から中学校までメンバーが固定化し、友人関係が逃げ場のないものになりやすい、視野が狭くなる、上下関係や格差が固定される、といった懸念がみられます。不登校の増加要因になり得るという見方もあり、思春期にはより多様な同世代と関わり、コミュニケーション力や社会性を身につけ高校以降の大人数環境に戸惑わない土台を作してほしいという声が多くありました。

特に、中学校は、部活動の種類が少なく存続も困難で、行事の活気も乏しいなど、選択肢の不足が子どもの成長機会を奪っているとされます。複式学級についても、学力低下や授業の質への不安が語られ、「複式になるくらいなら早めに統合を」という意見が強いようです。

一方で、少人数だからこそ丁寧な指導や自然体験、地域との深い関わりといった価値も認められており、統合か維持かの二択にせず、オンライン合同授業などICT活用で弱点を補う提案や、統合しない場合の利点・可能性も同時に示してほしいという要望もみられました。

課題として大きいのは通学です。距離や時間、とくに低学年の負担、豪雨・猛暑、熊や猿不審者など安全面への不安が多く、統合を進めるならスクールバスの拡充、バス通学範囲の拡大、夏場だけのバス利用、町営バスの補完運行など、具体的な移動手段の整備が不可欠だと考えられます。

学童保育についても、統合後の場所や送迎のしやすさ、時間延長・町営化を含む拡充を求める声があり、共働き家庭の現実に合わせた支援（給食の提供日を増やす等）も重要論点となっています。

また、統合に伴う環境変化で戸惑う子が出ることを想定し、友人関係や精神面のケア、子どもに寄り添う教職員を支える体制づくりも求められています。施設面では、プールの老朽化や衛生、体育館空調、耐震性など安全性への懸念が強く、修繕で先延ばしするより、統合や建て替えを含めて、早急に安全な学習環境を整えるべきだという意見がありました。

さらに、統廃合は教育だけの問題ではなく、町の将来像と一体で考えるべきだという視点も多くあります。廃校は、地域衰退につながる不安がある一方、跡地をコミュニティ拠点・防災拠点・図書館機能などに活用し、地域が寄り添える場を残す提案がありました。

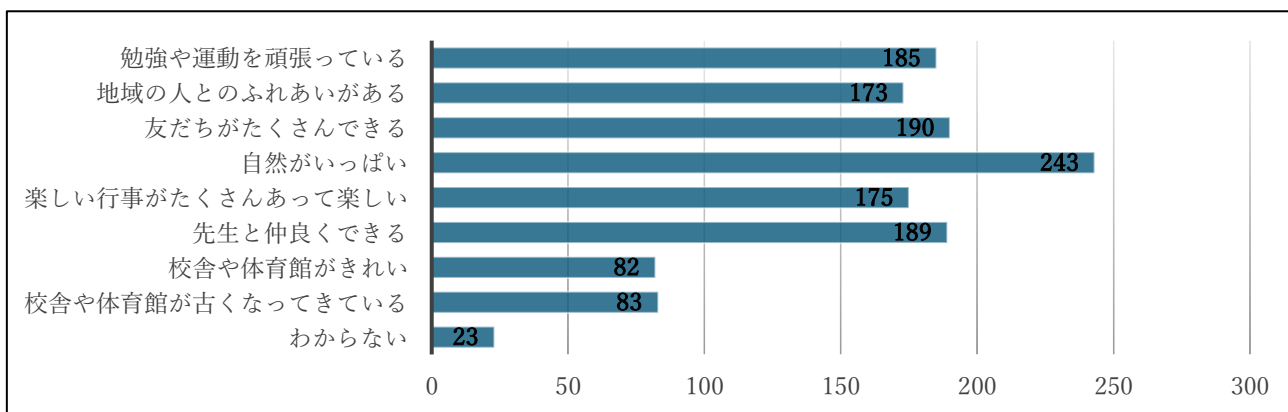
移住者受け入れ、子育て支援、働き口づくり、特色ある教育（外部講師、英語・プログラミング、食育や有機農業体験、放課後や部活動の充実）を町ぐるみで進め、「大台町ならではの魅力」で、人口減少に向き合ってもらいたいという意見がありました。

(2) 児童生徒アンケート結果

通っている（通っていた）小学校をどう思っているか。

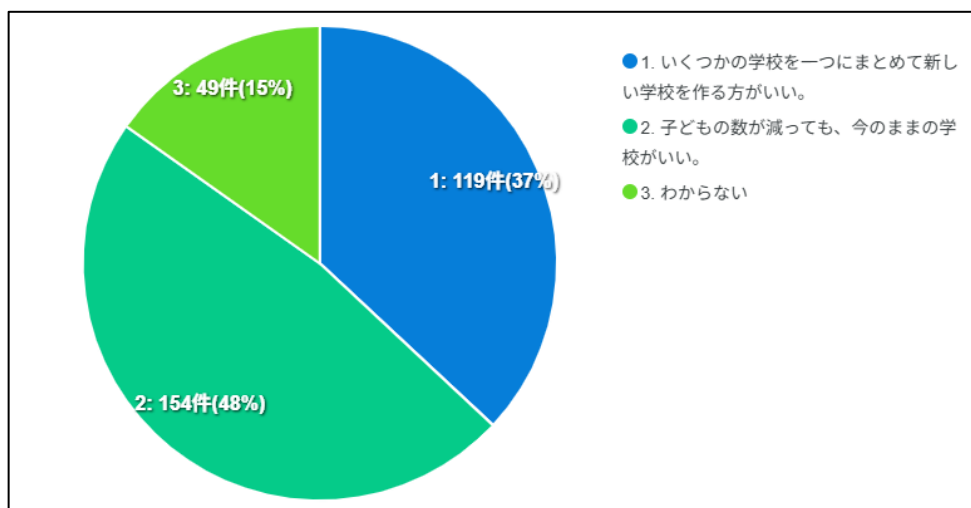
小学生が感じる学校の魅力は「自然がいっぱい」が最も強く、地域資源としての自然環境が学びと生活の満足度に直結していることがうかがえます。続いて、「友だちがたくさんできる」「先生と仲良くできる」「勉強や運動を頑張っている」が多く、人間関係の良好さと学習・運動への前向きな姿勢が両立しています。行事面も「楽しい行事がたくさん」と評価が高く、学校生活の充実が図られています。

一方、施設面では「きれい」と「古くなっている」が同じくらいの回答数となり、学校間・施設間で老朽度やメンテナンスの差がある可能性が高いといえます。無回答・「わからない」は少数で、児童は自校の特徴を比較的明確に捉えているといえます。



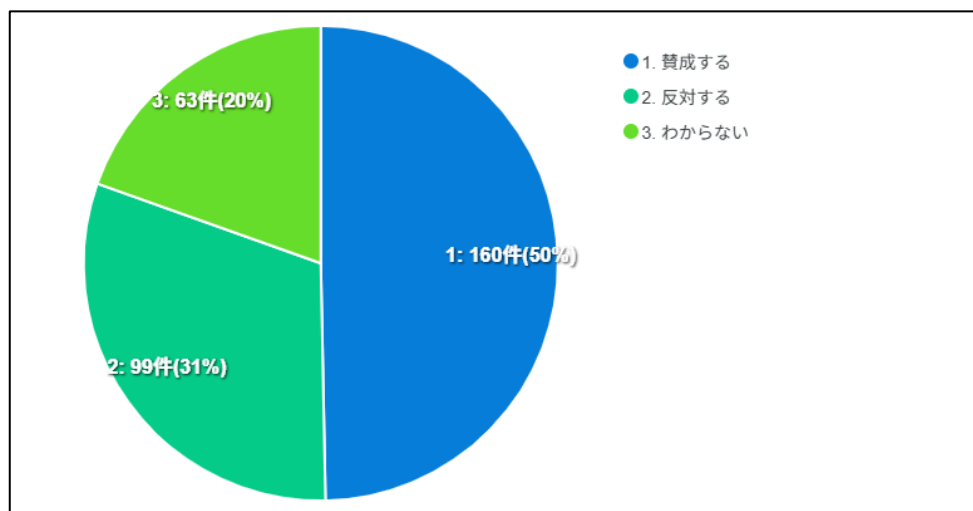
児童数が減ってきていますが、これからどうしていけばいいと思いますか。

アンケートでは「統合して新しい学校を作る」(37%)、「今のままがいい」(48%)、「わからない」(15%) となり、現状維持がやや多い一方で賛否は拮抗し、迷っている子どもたちも一定数います。



通っている（通っていた）小学校が他の学校と一緒にすることについて、賛成ですか。反対ですか。

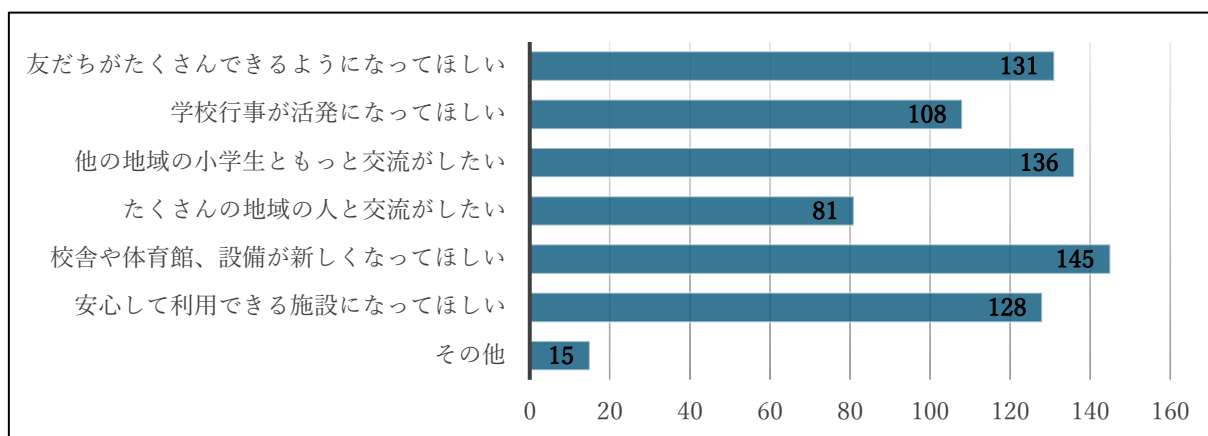
回答の内訳は、賛成 50%、反対 31%、わからない約 20%でした。賛成が最も多い状況です。



通っている（通っていた）小学校について、良くなってほしいことは何ですか。

アンケートからは、「施設の改善」と「人との交流の拡大」という2つの大きなニーズがはっきりしました。最も多かったのは「校舎・体育館・設備を新しくしてほしい」で、老朽化や使いづらさへの不満、学びや運動の質を支える基盤整備への期待が強いことが分かります。次に多かったのは「他地域の小学生ともっと交流したい」、「友だちがたくさんできるようにしてほしい」、「安心して使える施設にしてほしい」です。

つまり、校内外のつながりを広げることと、安全・安心を高めることの両方が求められています。「学校行事をもっと活発に」や「地域の人との交流」は相対的には少ないものの、依然として重要なニーズです。交流の質や安全性、設備の改善が進めば、行事の活性化にもつながると考えられます。



子どもたちの自由意見

- 学校の人数も年々減ってきているので、大台の学校が合併した方がいいと思う。
- いろんな小、中学校が合わさって友だちがたくさんできるようになってほしいです。
- 子どもが少なくなっているから人数が少ない学校と少ない学校を合わせるといいと思います。
- 人数が少なくても、楽しくあきない学校生活を送ってほしいです。(楽しくワイワイできる学校にしていきたいです。)
- 部活が増えてほしい。部活「クラブ」が4～5個になってほしいです。
- 友だちと良くなりたいです。
- バレー部がないので、作ってほしいです。大台中学校と合併して欲しいです。
- もっと行事をやってほしい。他の学校の子と交流したい。地域の人ともっと交流をしたい。
- 中学校で部活を増やした方がいいと思う。あと、小学校で違う学校の子と交流して早いうちに、仲良くなりたいと思った。
- やっぱり学校を新しく頑丈にしてほしいし、もう少しみんなのできる行事を増やしたいです。
- 部活がなくなるくらいなら、合併した方がいいと思います。
- もっといろんな学校との交流を増やした方が色々な地域のことが知れていいと思う。
- 合併したくないです。合併は反対します。
- 私は、人数が少なくなっても6年生までずっとこの学校がいいです。理由は、人数が多くなったら、クラス替えで仲の良い友だちと別れてしまうかもしれないからです。あとこの三瀬谷小学校が好きだからです。
- 町内の学校と一緒になりたくないです。学校を新しくしてほしいです。
- 統合はどっちでもいいけど三瀬谷小学校の校舎が古い。
- 学校が新しくなってほしい。授業が楽しくなってほしい。
- 設備をしっかりしてほしい。
- 登校時間が長かったら、みんなが心配しそうだから登校時間を短くしたい。
- この日進小学校にたくさん思い出が詰まっているので、今のままが一番いいです。

参考資料 中学校の部活動の現状（令和8年1月末日現在）

【大台中学校】

ソフトテニス（男・女）、卓球（男・女）、創作 軟式野球（地域クラブ）

【宮川中学校】

ソフトテニス（男・女）、写真・ボランティア

5. 大台町における小学校の適正規模・適正配置

(1) 大台町の学校規模と今後の見込み

【小学校】

()内は普通学級数

	令和7年度	令和13年度
複式学級が存在する規模 (1～5学級)	川添小(4)	川添小(4)・宮川小(4)
クラス替えができない規模 (6学級)	三瀬谷小(6)・日進小(6) 宮川小(6)	日進小(6)・三瀬谷小(6)
全学年ではクラス替えができない規模 (7～8学級)		
半分以上での学年でクラス替えができない規模 (9～11規模)		
標準規模 (12～18学級)		

※公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引きから(H27.1.27文部科学省)

(2) 大台町における小学校の適正規模・適正配置の考え

前述しましたように学校教育法施行規則第41条において、「小学校の学級数は、12学級以上18学級以下を標準とする。ただし、地域の実態その他により特別の事情のあるときは、この限りでない」とされています。

大台町立の小学校は、国の適正規模・適正配置に全く該当しない規模の学校ですので、上記の施行規則の「ただし、地域の実態その他により特別の事情のあるときは、この限りでない」に相当します。

そこで、大台町は、町の現状を踏まえ、大台町における小学校の適正規模・適正配置について、子どもたちのより良い学習環境を整備していくために、次のように考えます。

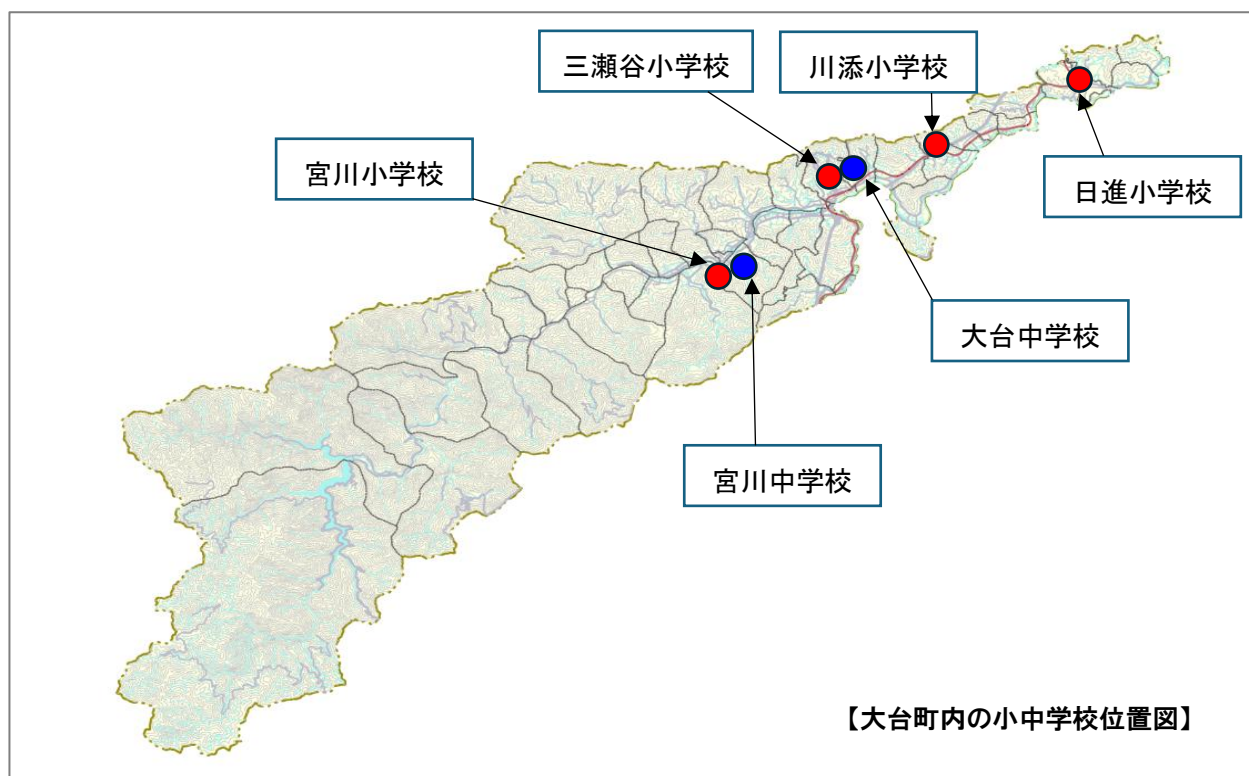
- ① 小学校に就学する時に、できる限り人間関係が固定しないように、多くの子どもと社会生活を体験できるように配慮すること
- ② 子どもたちの身体的・精神的な負担とならないように、通学距離や通学方法に配慮すること
- ③ 大台町として、最善な適正規模に努めること

6. 未来を担う子どもたちのための教育環境の整備

大台町は、三重県中部の「奥伊勢」とよばれるエリアに位置する東西に細長い町であり、その町内の真ん中を県下最大の河川「宮川」が横断しており、町土の約90%以上を森林が占めています。

近年の社会情勢を鑑みると各地で地震や豪雨等の災害が多発しており、学校の施設が地域の防災拠点となっている現状がみられます。

大台町においても、学校の施設が地域の防災拠点となり、地域の人々を守ることができることが大切になってきます。大台町内の小学校の未来に向けて、子どもたちが安心安全に学校生活を送れる環境づくりがこれからは必要だと考えます。



大台町内の小学校において、学校の適正規模化を図るのであれば、町内の4小学校を再編して1カ所に集めることが最適ではあります。しかしながら、東西に約50kmと長い大台町で、町の真ん中に学校を作ったとしても、片道25kmの通学距離になってしまいます。この距離を小学校1年生がスクールバスに乗って通学することは、現時点において非常に困難なことと考えます。

町内の小学校については、なるべく現状を維持していければよいのですが、日進小学校や川添小学校、三瀬谷小学校の校舎等の施設は、60年以上を経過しておりますので、現状維持も難しい状況にあります。

上記のことを含め、大台町立小学校のあり方検討委員会は、これまで9回の検討を重ね、あわせてアンケート結果等により保護者・地域の声を把握いたしました。その中で、今後の学校のあり方を検討して、何よりも優先されるべきは、子どもたちが安全・安心に学校生活を送れることだと考えます。

子どもたちの生命と健康を守る視点を最上位に置き、教育環境、通学条件、施設状況、将来推計を総合的に整理した結果、次のとおりにとまとめました。

(1) 基本方針

本町の小学校再編・整備は、以下を最優先の基準として判断・実行してください。

- 児童の安全確保(耐震性・老朽化対策・災害時の安全)
- 安心して通える通学環境(距離・時間・道路事情・気象条件・見守り体制)
- 安心して過ごせる学校生活(健康・心のケア・居場所づくり)

(2) 学校配置の再編・適正

アンケートでは、児童数減少の中で教育環境の維持・充実を望む声がある一方、通学負担や地域性への配慮を求める意見も多く示されました。国の適正規模・適正配置の考え方では1校集約も想定されますが、大台町は東西に長い地形であり、通学距離・時間の増加が安全面のリスクに直結します。よって当委員会は、当面の措置として次の2校体制が望ましいと考えます。

- 「日進小学校・川添小学校・三瀬谷小学校」を1校に再編
- 「宮川小学校」は現行のまま1校として存続

これは、学校規模の確保による教育環境改善と、通学上の安全性確保を両立させるための現実的な判断です。

(3) 施設整備

日進小学校・川添小学校・三瀬谷小学校の校舎は、築60年を経過しており、老朽化による安全上の不安を解消する必要があります。南海トラフ地震の発生が危惧されることを踏まえ、児童の安全・安心を守る観点から、統合後の学校は建て替えを前提に整備を進めるべきです。

新校舎は、日常の安全性(動線、見守り、バリアフリー、衛生環境)に加え、地震・風水害等の非常時における安全確保(避難、備蓄、地域連携)も含め、防災機能を備えた学校とすることが望ましいです。

一方、宮川小学校の校舎は木の温もりがあり、教育環境として優れています。現校舎の良さを活かしつつ、必要な安全点検と適切な維持管理を継続し、児童が安心して学べる環境を確保してください。

また、児童数の推移を踏まえると将来的に1校体制となる可能性があるため、新校舎は将来4校が1校になることも想定した地域への建設とその規模・拡張性を確保し、保護者・児童が関心を寄せる「誰もが通いたくなる」安全で魅力ある学びの場として整備してください。

(4) 通学の安全対策

学校再編に伴い通学範囲が広がる可能性があることから、配置決定と同時に次の安全対策を講じてください。

- 通学距離・時間を踏まえた通学手段の確保(必要に応じた支援)
- 危険箇所の把握と改善、見守り体制の強化など、登下校時の安全対策の具体化
- 雨天・災害時の対応基準を明確化し、児童・保護者が安心できる運用ルールの整備

(5) 将来の見通し

児童数の推移から、将来的に1校体制となることも想定されます。ただし、再編の検討は常に安全・安心が確保できることを前提とし、通学条件や地域の状況を継続的に確認しながら、段階的に判断することが必要です。

(6) 今後に向けて

小学校の統合再編を進めるにあたって、当委員会から教育委員会に対し、特に留意していただきたい事項については、以下の通りです。

① 環境変化への配慮

小学校の統合再編が行われた場合、児童の学習環境や生活環境が大きく変化することから、新たな学校生活に円滑に移行できるよう、事前に学校間交流を実施するなど、学習面や心理面について十分な配慮が必要です。

② 通学環境における安全安心への配慮

小学校の統合再編が行われた場合、児童の通学区域が大きく変化することから、防犯対策や交通事故対策等の通学路の安全確保や地域での見守り活動等の安心面について、地域と一体となって調整するとともに、スクールバス等の手立てを講じる場合には、児童の運動不足や教育活動の時間の確保等、対象となる児童の心身のケアについて十分な配慮が必要です。

また、通学区域の拡大や変更により、地域と学校の関係が希薄化することのないよう配慮する必要があります。

③ 教職員体制の整備等への配慮

地理的条件などにより小規模校を存置する場合、学級数の減少に伴い教職員の配置も減少することから、子どもたちの学びを充実するため、指導方法やカリキュラム編成の工夫などを図るとともに、教職員の資質向上のための研修機会を充実し、より効果的な教育活動を行うことができるようにする必要があります。また、教職員が毎日子どもたちの前でいきいきと教壇に立てるよう、これからも教育に対する情熱と使命感をもつ若者が教職員になりたいと思えるよう、教育委員会も教職員自らも学校における働き方改革に全力で取り組む必要があります。

④ 地域コミュニティ活動への配慮

学校施設は、地域行事や地域活動の拠点施設、災害時の避難場所など、地域コミュニティの核となっていることから、小学校の統合再編を進めるにあたっては、保護者や地域住民に対して、その必要性などを十分に説明し、理解を得られるよう配慮する必要があります。

⑤ 学校施設及び跡地の活用

小学校の統合再編が行われた場合、使われなくなる学校施設及び跡地の活用に関する地域の意向やニーズを考慮するとともに、財政面や防災面などを踏まえ、多角的な視点から将来を見通した有効活用策を検討するよう配慮する必要があります。

⑥ 学校施設整備への配慮

学校施設の維持更新や保全を図る上では、コスト縮減の意識を持ちつつも、老朽化対策、安全性の確保の観点から責任を持って予算を確保し整備するなど、小学校の統合再編が行われた場合においても、引き続き、適切な管理運営に取り組むよう配慮する必要があります。

(7) 結びに

当委員会は、子どもたちの安全・安心を最重要事項として、当面は4校を2校へ再編し、統合校については、老朽校舎の課題を解消するため、建て替えを前提とした整備が妥当であると考えます。

町におかれては、通学の安全対策を含めた具体的な実施計画を速やかに示し、保護者・地域と丁寧に関わりながら、子どもたちが安心して学び成長できる学校づくりを着実に進めていただくことを強く望みます。

当委員会は、大台町の未来を担う子どもたちがより良い教育環境の中で、心身ともに健やかに成長していくことを心より願っています。

4. 国・県における適正規模の考え方

(1) 法令に見る学校の適正規模とは

学校教育法施行規則第41条において、「小学校の学級数は、12学級以上18学級以下を標準とする。ただし、地域の実態その他により特別の事情のあるときは、この限りでない。」とされており、中学校もこの規定を準用するようになっています。

大台町では、令和8年度当初、特別支援学級を除いて、日進・三瀬谷の2小学校は、各学年1クラスの普通学級6クラスですが、川添小学校は2複式の4クラス、宮川小学校は1複式の5クラスとなります。

ちなみに、平成27年1月27日の文部科学省の「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」の中に、学級数による学校規模の標準を下記の表のように分類しています。

学校規模	学校教育法施行規則	公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引
小学校学級数	12学級以上18学級以下	1学年2学級以上（12学級以上）

(2) 学級数による教員の配置について

学級数	3	4	5	6	7	8	9	10
小学校の教員数	5	6	7	9	10	11	12	13

※ この定数のほか、状況に応じて加配による教員（児童生徒支援等）が配置されます。

※ 定数には、校長も含まれます。

(3) 国・三重県における学級規模の基準〔学級の人数〕

① 国における1学級あたりの児童数の標準

【国の学級編制基準】	小学校
単式学級 (同学年の児童で編制する学級)	35人
複式学級 (二つの学年の児童で編制する学級)	16人 (1年生を含む場合8人)
特別支援学級	8人

② 県における1学級あたりの児童数の標準

【県の学級編制基準】	小学校
単式学級 (同学年の児童で編制する学級)	1～2年生 30人(下限25人) 3～6年生 35人
複式学級 (二つの学年の児童で編制する学級)	16人 (1年生を含む場合8人) (6年生を含む場合14人)
特別支援学級	8人

(4) 通学距離や通学時間〔通学条件〕

国の基準	通学距離	通学時間
小学校	おおむね4 km以内	おおむね1時間以内

※ 通学距離が基準を超える場合は、スクールバスや公共交通機関を活用するなど、通学時間が基準の範囲内となるように、様々な手立てを講じること

(5) 小規模な学校のメリット・デメリット

一般的に、小規模な学校にあつては、教職員と児童との人間的なふれあいや児童それぞれの特性を把握しやすく、個に応じたきめ細かな指導ができることなどの利点がありますが、児童同士の意見交換や学び合い、体育・音楽等での集団での教育効果が望みにくいことや教職員の適正配置の面など、必ずしも望ましい教育環境にあるとは言えません。

なお、学校の小規模化がもたらすメリットとデメリットについては、各学校の教育活動や児童の状況、地域と学校の関係など、学校を取り巻く様々な状況との関係性を考慮しながら判断するものです。

しかし、小規模な学校のメリットは、小規模校でなければ得られないというのではなく、標準規模においても工夫によって活かすことのできるものが多くあります。その反面デメリットについては、小規模校であることによる、物理的な制約によるものが少なくないと言えます。

〔具体的事例〕

○小規模校であることのメリット

【教育効果・学習環境】

- ◇ 教職員が子どもたちに一人ひとりの特性を把握し、きめ細かな学習指導、生活指導ができます。
- ◇ 学校生活への参加意識が高くなり、互いに教え合う機会が増えます。
- ◇ 児童数に比べて、施設・設備が恵まれています。

【人間関係や生活環境】

- ◇ 教職員と子どもたちの親密な関係が築かれます。
- ◇ 子どもたちも個々の特性を理解しやすく、人間関係が深まりやすくなります。

【学校経営や運営】

- ◇ 子どもの個性や課題について、教職員が共通理解を図りながら学校運営ができます。
- ◇ 地域の中心的な施設としてあることが多く、学校・地域が連携した活動を行いやすいことがあります。

○小規模化によるデメリット

【教育効果・学習環境】

- ◆ 子ども同士で高め合おう、学び合おうとする気持ちが薄れやすい傾向が見られます。
- ◆ 集団活動の機会が少なく、社会性の醸成を図りにくい面があります。
- ◆ 子ども同士の評価が固定されやすく、学習意欲や競争心に問題を生じやすい面も見られます。

【人間関係や生活環境】

- ◆ クラス替えなどがなく、人間関係が固定化されやすい面が見られます。
- ◆ 少人数のため、リーダーが得られにくく、またリーダーが固定されやすい傾向があります。
- ◆ 教職員に依存する傾向が強くなりやすく、自立心や社会性が育ちにくい面も見られます。

【学校経営や運営】

- ◆ 教職員数が限られるため、効果的・弾力的な学校運営が難しいことがあります。
- ◆ 校外学習の引率指導や危機管理が手薄になりがちです。
- ◆ 教職員一人あたりの校務分掌の負担が大きくなります。

《参考資料》

- (資料1) 諮問書(写し)
- (資料2) 大台町立小学校のあり方検討委員会設置条例
- (資料3) 大台町立小学校のあり方検討委員会 委員名簿
- (資料4) 答申に至るまでの検討委員会の開催経過等
- (資料5) 学級数・児童数の現状と将来推計
- (資料6) スクールバスの運行状況〔令和7年度〕

(資料1) 諮問書 (写し)



大教子第 225号
令和7年 5月28日

大台町立小学校のあり方検討委員会 様

大台町教育委員会



大台町立小学校の今後のあり方について (諮問)

大台町立小学校のより良い教育環境を整備し、充実した教育に資するため、大台町立小学校のあり方検討委員会設置条例第2条の規定により、下記の事項について諮問いたします。

諮問事項

大台町立小学校の今後のあり方に関する事項

諮問理由

大台町では、校舎の老朽化や児童生徒数の減少に伴う教育環境の変化への対応が求められています。町内の小学校の子どもたちにとって、よりよい教育活動や学校運営を行うためには、一定の「学校」の規模や教育環境を確保していく必要があります。

このようなことから、大台町の小学校における現状と課題を整理するとともに、教育環境を整備し、充実した学校教育を実現するため、今後の小学校の適正規模及び適正配置を考えた今後のあり方に関する基本方針の策定について、ご検討をいただきたく諮問するものです。

(資料2) 大台町立小学校のあり方検討委員会設置条例

(設置)

第1条 町における児童数の推移を踏まえ、大台町立小学校（以下「学校」という。）の将来を展望した学校のあり方について、幅広い見地から検討するため、大台町立小学校のあり方検討委員会（以下「検討委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 検討委員会は、教育委員会の諮問に応じ、学校の適正規模、適正配置などの学校のあり方について協議し、答申するものとする。

(組織)

第3条 検討委員会は、委員8人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから大台町教育委員会（以下「教育委員会」という。）が委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) 学校教育経験者
- (3) その他教育委員会が必要と認める者

(任期等)

第4条 委員の任期は、委嘱の日から第2条の規定による答申を終える日までとする。

2 委員が欠けた場合は、補欠の委員を置くことができる。

(委員長及び副委員長)

第5条 検討委員会に委員長及び副委員長を置く。

2 委員長及び副委員長は、委員の互選により定める。

3 委員長は、検討委員会を代表し、会議を主宰する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 会議は、委員長が招集し、委員長が議長となる。ただし、委員長が互選される前に招集する会議は、教育長が招集する。

2 会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 会議の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(関係者の出席等)

第7条 検討委員会は、必要があると認めるときは、関係者に対し、会議に出席を求めて意見若しくは説明を聴き、又は必要な資料の提出を求めることができる。

(庶務)

第8条 検討委員会の庶務は、教育委員会事務局子ども教育課において処理する。

(委任)

第9条 この条例に定めるもののほか、検討委員会の運営に関し必要な事項は、教育委員会が定める。

附 則

この条例は、令和7年4月1日から施行する。

(資料3) 大台町立小学校のあり方検討委員会 委員名簿

名 前	所属・職名等	備 考
◎ 竹内 一	元 昂学園高等学校 校長	条例第3条第1号委員
○ 齋藤 平	皇学館大学 学長	条例第3条第1号委員
西村 茂	元 日進小学校 校長	条例第3条第2号委員
上瀬 恵子	元 小学校 教諭	条例第3条第2号委員
森井 哲永	元 小学校 教諭	条例第3条第2号委員
松崎 寛子	元 保育園 園長	条例第3条第3号委員

※ 委嘱年月日：令和7年5月28日から答申の日まで

※ 所属・職名等は、委嘱時のもの

※ ◎：委員長、○：副委員長

(資料4) 答申に至るまでの検討委員会の開催経過等

検討委員会	開催日	協議内容等
第1回	令和7年5月28日	<ul style="list-style-type: none"> ・委嘱 ・諮問 ・大台町の現状 等
第2回	令和7年6月23日	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査の概要
第3回	令和7年7月29日	<ul style="list-style-type: none"> ・各小学校 視察 ・放課後児童クラブ 視察
アンケート	令和7年7月14日から 令和7年8月8日まで	<p>「大台町の子どもたちのより良い教育環境を考える」 アンケート調査実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査対象者 1,123人 ・回答者(率) 825人(73.5%)
アンケート (再周知)	令和7年9月1日から 令和7年9月15日まで	<p>「大台町の子どもたちのより良い教育環境を考える」 アンケート調査実施(再周知)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査対象者 1,123人 ・回答者(率) 825人(73.5%)
第4回	令和7年10月4日	<ul style="list-style-type: none"> ・日進保育園及び日進小学校保護者代表 懇談 ・三瀬谷認定こども園及び三瀬谷小学校 保護者代表 懇談
第5回	令和7年11月8日	<ul style="list-style-type: none"> ・川添保育園及び川添小学校保護者代表 懇談 ・宮川保育園及び宮川小学校保護者代表 懇談 ・各地区区長会代表 懇談
第6回	令和7年12月12日	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果の分析
第7回	令和8年1月28日	<ul style="list-style-type: none"> ・大台町における適正規模及び適正配置について
第8回	令和8年2月25日	<ul style="list-style-type: none"> ・大台町における適正規模及び適正配置について ・答申最終案の確認
第9回	令和8年3月23日	<ul style="list-style-type: none"> ・答申最終案の確認 ・答申

(資料5) 学級数・児童数の現状と将来推計 (令和7年5月1日現在)

● 学級数・児童数の現状 (学校基本調査)

小学校	全体		1年		2年		3年		4年		5年		6年	
	学級	児童	学級	児童	学級	児童	学級	児童	学級	児童	学級	児童	学級	児童
日進	6	70	1	12	1	14	1	13	1	11	1	11	1	9
川添	4	26	1	5	1	5	0	2	1	7	0	3	1	4
三瀬谷	6	130	1	15	1	18	1	20	1	27	1	26	1	24
宮川	6	62	1	5	1	11	1	12	1	12	1	10	1	12
合計	22	288	4	37	4	48	3	47	4	57	3	50	4	49

※学級数は普通学級数のみ。三重県の標準学級基準にて算出。

● 学級数・児童数の将来推計 (令和7~13年度) (10年推計)

小学校	R8		R9		R10		R11		R12		R13	
	学級	児童	学級	児童	学級	児童	学級	児童	学級	児童	学級	児童
日進	6	70	5	72	5	73	5	72	6	63	6	56
川添	4	31	4	36	4	31	4	35	4	37	4	39
三瀬谷	6	120	6	101	6	88	6	81	6	73	6	67
宮川	5	64	5	62	5	56	4	52	5	48	4	46
合計	21	285	20	271	20	248	19	240	21	221	20	208

※学級数は普通学級数のみ。三重県の標準学級基準にて算出。

● 3つの小学校が統合再編した場合の児童数（令和8年度～令和14年度）

小学校	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032
日進	70	72	73	72	63	56	52
川添	31	36	31	35	37	39	30
三瀬谷	120	101	88	81	73	67	62
合計	221	209	192	188	173	162	144

小学校	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032
宮川	64	62	56	52	48	46	35
合計	64	62	56	52	48	46	35

● 3つの小学校が統合再編した場合の学級編制（令和8年度～令和13年度）

（日進小学校・川添小学校・三瀬谷小学校）

小学校	R8		R9		R10		R11		R12		R13	
	学級	児童	学級	児童	学級	児童	学級	児童	学級	児童	学級	児童
1年	2	32	1	28	1	28	2	31	1	22	1	21
2年	1	28	2	32	1	28	1	28	2	31	1	22
3年	2	37	1	28	1	32	1	28	1	28	1	31
4年	1	32	2	37	1	28	1	32	1	28	1	28
5年	2	43	1	32	2	37	1	28	1	32	1	28
6年	2	37	2	43	1	32	2	37	1	28	1	32
支援	2	12	2	9	1	7	1	4	1	4	0	0
合計	12	221	11	209	8	192	9	188	8	173	6	162

※学級数は普通学級数のみ。三重県の標準学級基準にて算出。

(宮川小学校)

小学校	R8		R9		R10		R11		R12		R13	
	学級	児童	学級	児童	学級	児童	学級	児童	学級	児童	学級	児童
1年	1	14	1	8	1	6	1	8	1	7	1	3
2年	0	3	1	14	1	8	0	6	0	8	0	7
3年	1	11	0	3	1	14	1	8	1	6	1	8
4年	1	11	1	11	0	3	1	14	1	8	0	6
5年	1	12	1	11	1	11	0	3	1	14	1	8
6年	1	10	1	12	1	11	1	11	1	3	1	14
支援	1	3	1	3	1	3	1	2	1	2	0	0
合計	6	64	6	62	6	56	5	52	6	48	4	46

※学級数は普通学級数のみ。三重県の標準学級基準にて算出。

(資料6) スクールバスの運行状況[令和7年度]

SB1号車(29人乗り)【町営】

【宮川小学校・宮川中学校】				
停留所	時刻	距離	乗車人数	
			小	中
猿飼	7:45	6.1km	2	0
多度橋	7:50	5.7km	4	1
新宮川大橋	7:52	5.0km	2	3
上真手	7:53	4.4km	6	3
本田木屋	7:54	3.8km	2	1
小切畑	7:58	2.3km	2	0
学校着	8:05			
			18	8

SB3号車(15人乗り)【町営】

【宮川小学校・宮川中学校】				
停留所	時刻	距離	乗車人数	
			小	中
上中木屋	7:47	7.1km	1	0
集会所前	7:50	5.7km	0	2
下出	7:52	5.3km	2	4
栗谷口	7:58	2.3km	0	1
学校着	8:05			
			3	7

SB2号車(29人乗り)【町営】

【宮川小学校・宮川中学校】				
停留所	時刻	距離	乗車人数	
			小	中
久豆駐在所前	7:26	20.0km	3	0
西村旅館前	7:32	16.9km	2	0
岩井半次郎橋	7:36	14.5km	4	0
滝谷 小又	7:44	9.3km	1	0
落滝	7:48	9.1km	0	1
滝谷	7:49	8.7km	0	1
大井	7:50	7.5km	0	1
神滝	7:52	7.0km	0	3
小滝(領内支所前)	7:53	5.7km	2	1
唐櫃	7:56	3.9km	1	0
熊内	8:00	1.5km	2	0
学校着	8:05			
			15	7

SB4号車(15人乗り)【町営】

【宮川小学校・宮川中学校】				
停留所	時刻	距離	乗車人数	
			小	中
菅木屋	7:49	5.6km	1	0
泉集会所	7:50	5.0km	1	2
清水集会所	7:53	3.7km	3	3
学校着	8:05			
			5	5

スクールバスの運行状況〔令和7年度〕

SB1号車(57人乗り)【町営】

【三瀬谷小学校】				
停留所	時刻	距離	乗車人数	
			小	中
滝広口	7:39	8.0km	2	/
大ヶ所公民館	7:42	6.9km	4	/
上菅バス停	8:00	5.9km	1	/
消防署詰所前	8:01	4.2km	14	/
旧南保育園前	8:03	3.3km	5	/
川合旧児童集会所	8:10	2.6km	1	/
学校着				/
			27	/

SB1号車(47人乗り)【委託】

【大台中学校】				
停留所	時刻	距離	乗車人数	
			小	中
千代	7:30	15.7km	/	1
柳原	7:32	15.3km	/	4
日進公民館	7:40	12.3km	/	7
グリーンプラザおおだい	7:45	12.2km	/	8
三交 川添バス停	7:53	6.9km	/	4
三交 粟生バス停	7:57	5.9km	/	3
三交 高奈バス停	7:59	5.1km	/	3
学校着	8:08		/	/
			/	30

SB2号車(15人乗り)【委託】

【三瀬谷小学校】				
停留所	時刻	距離	乗車人数	
			小	中
ふるさと耕房	7:45	4.8km	5	/
下三瀬集会所	7:51	2.3km	1	/
学校着	8:00	/	/	/
			6	/

SB2号車(51人乗り)【町営】

【大台中学校】				
停留所	時刻	距離	乗車人数	
			小	中
三交 楠ヶ野バス停	7:21	9.0km	/	2
本郷	7:34	12.8km	/	3
栃原駅前	7:39	12.6km	/	9
三交 栃原バス停	7:42	11.7km	/	5
三交 神瀬バス停	7:45	9.7km	/	1
三交 下楠バス停	7:48	7.4km	/	6
学校着	8:15	/	/	/
			/	26

SB3号車(15人乗り)【委託】

【大台中学校】				
停留所	時刻	距離	乗車人数	
			小	中
滝広	7:50	8.9km	/	1
相生橋	7:53	7.1km	/	1
大ヶ所停留所	7:57	6.1km	/	5
学校着	8:10	/	/	/
			/	7